



国家清史编纂委员会·文献丛刊

义和团运动文献资料汇编
中文卷(下)

在文川网搜素古籍上册
入庄商討 Verdi
不中用

国家清史编纂委员会·文献丛刊

义和团运动文献资料汇编

中文卷（下）

路遥 主编

山东大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

义和团运动文献资料汇编·中文卷·下/路遥主编.一济南:山东大学出版社,2012.2

ISBN 978-7-5607-4206-9

- I . ①义…
- II . ①路…
- III . ①义和团运动—史料
- IV . ①K256.706

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 187776 号



责任编辑 马银川

美术编辑 张 荔

出版发行 山东大学出版社

地 址 山东省济南市山大南路 27 号(250100)

印 刷 山东新华印刷厂

规 格 787×1092 毫米

印 张 237.5

字 数 5475 千字

版 次 2012 年 2 月第 1 版 2012 年 2 月第 1 次印刷

定价(全八册) 1380.00 元

凡购本书,如有缺页、倒页、脱页,由本社营销部负责调换

国家清史编纂委员会出版委员会

审者 王道成 邱远猷
本卷编者 苏位智

戴 逸
邹爱莲 孟 超 徐兆仁
成崇德 李文海 陈 桦
马大正 于 沛 朱诚如
(按姓氏笔画排序)

目 录

光緒廿六年

七月初一日(1900年7月26日)	(395)
《新闻报》.....	(395)
订约保护.....	(395)
《中外日报》.....	(395)
〔论说〕 覆不平子及彭君诸人函.....	(395)
《申报》.....	(396)
救时策.....	(396)
《知新报》.....	(397)
拳匪汇志.....	(397)
译西报论华事.....	(399)
津事详录.....	(400)
会议保护.....	(401)
《清议报》第五十二册.....	(401)
义和团滋事五志.....	(401)
七月初二日(7月27日)	(404)
《中外日报》.....	(404)
〔论说〕 东南变局忧言.....	(404)
七月初五日(7月30日)	(405)
《新闻报》.....	(405)
论和局办法.....	(405)
《申报》.....	(406)
与客论英国水师提督南来事.....	(406)
七月初六日(7月31日)	(407)
《申报》.....	(407)
劝各国停战说.....	(407)
七月初七日(8月1日)	(408)
《申报》.....	(408)

论俄国狡谋.....	(408)
《汇报》.....	(409)
民教相仇辨.....	(409)
七月初九日(8月3日)	(410)
《新闻报》.....	(410)
安居上海说.....	(410)
七月初十日(8月4日)	(411)
《申报》.....	(411)
保教策.....	(411)
七月十一日(8月5日)	(412)
《新闻报》.....	(412)
大臣被戮感言.....	(412)
《申报》.....	(413)
书报纪英相宣言后.....	(413)
《清议报》第五十三册.....	(413)
义和团滋事六志.....	(413)
七月十二日(8月6日)	(415)
《新闻报》.....	(415)
大臣被戮愤言.....	(415)
《申报》.....	(416)
续保教策.....	(416)
七月十三日(8月7日)	(417)
《新闻报》.....	(417)
英国筹华章程.....	(417)
七月十四日(8月8日)	(418)
《新闻报》.....	(418)
英国筹华章程书后.....	(418)
《申报》.....	(419)
论英、俄两国用心不同	(419)
遵谕保护外人示.....	(420)
遵旨保护地方示.....	(420)
七月十五日(8月9日)	(421)
《申报》.....	(421)
论英、日宜助中国拒俄以纾后患	(421)
《知新报》.....	(422)
荣禄隐衷.....	(422)
逆藩近事.....	(422)
津城陷后情形.....	(422)

拳匪江纪	(423)
黑龙江中俄开衅	(423)
营口中俄开衅	(423)
李相到沪后情形江纪	(424)
各省闹教汇录	(425)
浙省多乱	(426)
《中国旬报》第十九期	(426)
纪乱：拳党护照	(426)
纪乱：西人论天津战事	(427)
纪乱：辽阳交战	(427)
纪乱：家书照录	(427)
纪乱：津沽战事函述	(429)
七月十六日(8月10日)	(431)
《中外日报》	(431)
〔论说〕 书昨报续警信条后	(431)
《申报》	(432)
论近日沪上迁徙之多	(432)
七月十七日(8月11日)	(433)
《中外日报》	(433)
〔论说〕 书俄帝宣言派兵事后	(433)
《申报》	(434)
续劝各国停战说	(434)
七月十八日(8月12日)	(435)
《新闻报》	(435)
论英兵来沪	(435)
七月二十日(8月14日)	(436)
《新闻报》	(436)
再论英兵来沪	(436)
七月廿一日(8月15日)	(437)
《新闻报》	(437)
直督阵亡感言	(437)
《汇报》	(438)
恭读七月初八上谕书后	(438)
《清议报》第五十四册	(439)
荣禄主谋结拳匪攻西人信据	(439)
抄白京师某部郎来信	(442)
抄白荣禄与董福祥信	(442)
抄白董福祥复荣禄书	(443)

义和团滋事七志	(443)
七月廿二日(8月16日)	(445)
《申报》	(445)
论英人调印度兵来沪驻扎事	(445)
七月廿五日(8月19日)	(446)
《中国旬报》第二十期	(446)
存疑:姑妄听之	(446)
存疑:假传令箭	(447)
存疑:俄报谈中	(447)
七月廿六日(8月20日)	(447)
《中外日报》	(447)
[译报] 日本:公使密信	(447)
[译报] 日本:责备华员	(448)
七月廿七日(8月21日)	(449)
《中外日报》	(449)
[论说] 中英安危大势论	(449)
各地来函汇报	(449)
《申报》	(450)
论联军入京事	(450)
七月廿八日(8月22日)	(451)
《中外日报》	(451)
北事补述	(451)
《申报》	(451)
书六月二十一日上谕后	(451)
《汇报》	(452)
论洋人在中国	(452)
七月三十日(8月24日)	(453)
《申报》	(453)
追纪西人会议事略	(453)
八月初一日(8月25日)	(453)
《新闻报》	(453)
大臣遭难补述	(453)
《申报》	(454)
续录追纪西人会议事略	(454)
《知新报》	(454)
东南变局忧言二	(454)
统领武毅军直隶提督聂士成死事纪略	(455)
拳匪汇纪	(457)

目 录

浙乱续报	(458)
《清议报》第五十五册	(458)
义和团滋事八志	(458)
八月初二日(8月26日)	(460)
《中外日报》	(460)
名论照录	(460)
《申报》	(461)
三纪西人会议事略	(461)
浔江团练	(462)
八月初三日(8月27日)	(462)
《新闻报》	(462)
论匪徒每多假托	(462)
匪首正法详函	(463)
《申报》	(464)
团练说	(464)
鄂中诛乱记	(464)
八月初四日(8月28日)	(465)
《申报》	(465)
务实说	(465)
记西摩氏告上海道余观察语	(466)
鄂中诛乱记二	(466)
八月初五日(8月29日)	(467)
《申报》	(467)
鄂中诛乱记三	(467)
《汇报》	(467)
外交先治内乱论	(467)
《中国旬报》第二十一期	(468)
国是:许袁被害详志	(468)
邦交:英人创立新中国会启	(468)
邦交:外交政策	(469)
邦交:局外公论	(469)
邦交:旁观者清	(469)
邦交:英对中国之政策	(469)
纪乱:大通警耗	(470)
纪乱:从军录	(471)
国是:直督阵亡	(474)
国是:电调劲旅	(474)
存疑:团党获奖	(474)

八月初六日(8月30日)	(475)
《申报》.....	(475)
鄂中诛乱记四.....	(475)
八月初七日(8月31日)	(475)
《中外日报》.....	(475)
厦门：日兵赴华详情	(475)
八月初八日(9月1日)	(475)
《中外日报》.....	(475)
[论说] 厦门驻日兵忧言.....	(475)
《申报》.....	(476)
鄂中诛乱记五.....	(476)
《汇报》.....	(477)
论上海宜保乱险.....	(477)
八月初九日(9月2日)	(478)
《中外日报》.....	(478)
厦门日本教堂火起详志.....	(478)
《申报》.....	(478)
与客谈德帅华尔德西氏总统联军事.....	(478)
详记联军入京后事.....	(479)
伏莽宜除.....	(480)
八月初十日(9月3日)	(480)
《中外日报》.....	(480)
照录杭州伤心人来函.....	(480)
《申报》.....	(481)
觉愚警顽.....	(481)
八月十一日(9月4日)	(481)
《中外日报》.....	(481)
[论说] 平北难即以弭南祸论.....	(481)
续志厦门日本教堂被焚事.....	(482)
《申报》.....	(483)
续务实说.....	(483)
《清议报》第五十六册.....	(484)
义和团终局后志.....	(484)
自立会布告檄文.....	(485)
八月十二日(9月5日)	(485)
《中外日报》.....	(485)
[论说] 防俄篇.....	(485)
警信八十二志.....	(486)

目 录

三志厦门日本教堂被焚事	(486)
《申报》	(486)
鄂中诛乱记六	(486)
八月十四日(9月7日)	(487)
《申报》	(487)
龙溪教案	(487)
八月十五日(9月8日)	(487)
《中外日报》	(487)
各地来函	(487)
《申报》	(488)
论各国不允俄人为中国劝和事	(488)
《知新报》	(489)
湖北近事颠末志	(489)
拳事汇志	(490)
满洲中俄战务续述	(491)
英报名言	(491)
张之洞仇杀新党	(492)
衢乱续述	(493)
《中国旬报》第二十二期	(493)
邦交:俄人设官新章	(493)
邦交:德皇誓师	(494)
纪乱:联军入京情形	(495)
纪乱:日报军情	(495)
纪乱:英员军报	(496)
八月十六日(9月9日)	(496)
《中外日报》	(496)
慈谿王君来函照录	(496)
《申报》	(497)
鄂中诛乱记七	(497)
鸠江诛匪记	(497)
八月十七日(9月10日)	(498)
《中外日报》	(498)
厦事本末纪	(498)
《申报》	(498)
鄂中诛乱记八	(498)
八月十八日(9月11日)	(499)
《中外日报》	(499)
[论说] 论赈救直隶兵难会用意之善	(499)

追述袁、许二公遇害事	(500)
厦事本末记 续前稿	(500)
《申报》	(500)
鄂中诛乱记九	(500)
八月十九日(9月12日)	(501)
《中外日报》	(501)
记海城近事	(501)
《申报》	(501)
示安居民	(501)
八月二十日(9月13日)	(502)
《中外日报》	(502)
[论说] 请复辟即以存中国说	(502)
《申报》	(503)
日衅已平	(503)
详述大通匪乱情形	(503)
八月廿二日(9月15日)	(504)
《中外日报》	(504)
警信九十二志	(504)
八月廿三日(9月16日)	(504)
《中外日报》	(504)
警信九十三志	(504)
八月廿四日(9月17日)	(505)
《中外日报》	(505)
满洲:军事丛谈	(505)
牛庄:俄人举动	(506)
齐齐哈尔:俄人占据	(506)
八月廿五日(9月18日)	(506)
《中国旬报》第二十三期	(506)
存疑:北事要电	(506)
存疑:许、袁被戮缘由	(506)
存疑:日员微服	(506)
八月廿六日(9月19日)	(507)
《中外日报》	(507)
浙省勤王军事汇志	(507)
《申报》	(507)
遣重臣巡阅长江以弭匪乱议	(507)
八月廿七日(9月20日)	(508)
《中外日报》	(508)

目 录

东事汇述.....	(508)
《申报》.....	(509)
江西全省团练营制.....	(509)
八月廿八日(9月 21 日)	(509)
《中外日报》.....	(509)
各地来函:南京	(509)
《申报》.....	(510)
论俄人倡议撤兵事.....	(510)
八月廿九日(9月 22 日)	(511)
《申报》.....	(511)
中国宜止各国调兵论.....	(511)
《汇报》.....	(512)
论议和之难.....	(512)
八月三十日(9月 23 日)	(513)
《申报》.....	(513)
整顿民团说.....	(513)
鄂中诛乱记(九)[十].....	(513)
闰八月初一日(9月 24 日)	(514)
《中外日报》.....	(514)
[论说] 论议和时尚未至.....	(514)
警信一百零一志.....	(514)
各地来函:杭州	(515)
《知新报》.....	(515)
详述北京蹂躏情形.....	(515)
拳匪汇志.....	(516)
东省近事.....	(516)
衢州乱事纪.....	(516)
厦事虚警补述.....	(517)
厦门消息.....	(518)
《清议报》第五十八册.....	(518)
张之洞论.....	(518)
勤王兵计数.....	(520)
闰八月初二日(9月 25 日)	(520)
《中外日报》.....	(520)
营事汇述.....	(520)
《申报》.....	(520)
中国守旧维新之人均不得其要领说.....	(520)
闰八月初三日(9月 26 日)	(522)

《新闻报》.....	(522)
论赔款之难.....	(522)
《中外日报》.....	(523)
俄官文告照录.....	(523)
《申报》.....	(523)
赣省团练章程.....	(523)
闰八月初四日(9月27日)	(524)
《中外日报》.....	(524)
[论说] 论伏莽为种祸之胎.....	(524)
台事近述.....	(525)
《申报》.....	(525)
中国议和宜先痛剿拳匪说.....	(525)
闰八月初五日(9月28日)	(526)
《新闻报》.....	(526)
潍县谣言汇志.....	(526)
《中外日报》.....	(527)
北京:照译丁教习韪良条陈	(527)
《中国旬报》第二十四期.....	(527)
存疑:俄李密约	(527)
存疑:纪晋抚事	(527)
存疑:德俄密约	(527)
闰八月初六日(9月29日)	(528)
《中外日报》.....	(528)
详志大刀会匪被创事	(528)
闰八月初七日(9月30日)	(528)
《新闻报》.....	(528)
救国安民论.....	(528)
闰八月初八日(10月1日)	(529)
《中外日报》.....	(529)
[论说] 德人所拟议和条陈书后	(529)
日本:舆论节译	(530)
《申报》.....	(531)
论日兵捕获戕害德使之凶手事	(531)
闰八月初九日(10月2日)	(532)
《新闻报》.....	(532)
析津要事汇述	(532)
粤属教案详述	(532)
《中外日报》.....	(533)

目 录

论今日定乱之难.....	(533)
《申报》.....	(533)
偿款不如割地说.....	(533)
闰八月初十日(10月3日)	(534)
《中外日报》.....	(534)
[论说] 论时局屡变.....	(534)
《申报》.....	(535)
示缴匪票.....	(535)
《汇报》.....	(536)
论俄国请各国撤兵.....	(536)
闰八月十一日(10月4日)	(537)
《申报》.....	(537)
论中国俄患宜由英、日、美三国协力防维.....	(537)
闰八月十三日(10月6日)	(538)
《申报》.....	(538)
详述粤东闹教事.....	(538)
闰八月十五日(10月8日)	(538)
《中国旬报》第二十五期.....	(538)
邦交:法人论中	(538)
纪乱:析津要事汇述	(539)
纪乱:手书照录	(539)
闰八月十六日(10月9日)	(541)
《新闻报》.....	(541)
近政慨言	(541)
《申报》.....	(542)
摘叙自立会匪逆乱确据示	(542)
闰八月十七日(10月10日)	(544)
《新闻报》.....	(544)
论北方兵事	(544)
《申报》.....	(545)
示平教案	(545)
闰八月二十日(10月13日)	(545)
《新闻报》.....	(545)
直属匪耗类志	(545)
《中外日报》.....	(546)
[论说] 论疯人冲突仪仗事	(546)
紧要新闻	(546)
纪勤王军	(547)

《申报》.....	(547)
联军赴粤.....	(547)
俄兵赴粤述闻.....	(547)
《汇报》.....	(547)
保和局先惩首恶论.....	(547)
闰八月廿一日(10月14日)	(549)
《新闻报》.....	(549)
长江三可忧说.....	(549)
《中外日报》.....	(550)
〔论说〕 续论东南之将来.....	(550)
各地来函:南京	(550)
闰八月廿二日(10月15日)	(551)
《中外日报》.....	(551)
〔论说〕 论西人议禁军火运华事.....	(551)
各地来函:天津	(552)
上海:照会照录	(552)
北京:军事丛谈	(552)
《申报》.....	(553)
书本月十六日《申报》所登摘叙自立会匪逆乱确据示后.....	(553)
闰八月廿四日(10月17日)	(554)
《申报》.....	(554)
论俄人之残虐.....	(554)
照录湖广督宪张香帅通饬缉拿自立会富有票札.....	(555)
闰八月廿五日(10月18日)	(557)
《新闻报》.....	(557)
梅军剿匪详函.....	(557)
《中国旬报》第二十六期.....	(557)
存疑:邪会又起述函	(557)
闰八月廿六日(10月19日)	(557)
《新闻报》.....	(557)
论俄、德之关系中国	(557)
《中外日报》.....	(558)
警信一百二十五志.....	(558)
纪辽阳失守事.....	(559)
闰八月廿七日(10月20日)	(559)
《中外日报》.....	(559)
各地来函:天津	(559)
纪东三省近事.....	(560)

山东：团匪情形	(561)
《申报》.....	(561)
书两湖总督张香帅通饬缉匪札示后.....	(561)
闰八月廿八日(10月 21 日)	(562)
《新闻报》.....	(562)
论匪乱由于和局不成.....	(562)
《申报》.....	(563)
书报纪俄、德密约后	(563)
闰八月廿九日(10月 22 日)	(564)
《申报》.....	(564)
俄谋甚狡	(564)
九月初一日(10月 23 日)	(564)
《申报》.....	(564)
阅本报所纪俄谋甚狡系之以论	(564)
九月初二日(10月 24 日)	(565)
《申报》.....	(565)
论创设乡团之害	(565)
九月初五日(10月 27 日)	(566)
《新闻报》.....	(566)
直省匪耗汇述	(566)
九月初六日(10月 28 日)	(567)
《申报》.....	(567)
李芗园中丞致刘岘庄制军论团练事宜书	(567)
九月初十日(11月 1 日)	(568)
《新闻报》.....	(568)
吉林退让溯源	(568)
九月十一日(11月 2 日)	(569)
《新闻报》.....	(569)
记客述京师匪乱始末	(569)
《清议报》第六十二册	(569)
论列强对中国之政策及中国之前途	(569)
九月十五日(11月 6 日)	(572)
《新闻报》.....	(572)
议和后必行新政说	(572)
《知新报》.....	(573)
论匪术与鬼戏相同	(573)
厦事续闻	(574)
《中国旬报》第二十八期	(574)

北省大事记：京中旧事汇述	(574)
警信汇记	(575)
各国时事：德书译略	(578)
九月十七日(11月8日)	(578)
《申报》	(578)
教案丛生	(578)
九月十九日(11月10日)	(579)
《新闻报》	(579)
[论说] 论联军巡行直隶各属	(579)
九月二十日(11月11日)	(580)
《申报》	(580)
梅军剿匪记	(580)
九月廿一日(11月12日)	(580)
《新闻报》	(580)
德兵破村详述	(580)
九月三十日(11月21日)	(581)
《新闻报》	(581)
[论说] 论和议迁延之害	(581)
十月初一日(11月22日)	(582)
《新闻报》	(582)
[论说] 再论和议迁延之害	(582)
《知新报》	(583)
《伦顿报》论中国	(583)
京事杂述	(584)
死不得所	(585)
山陕近事	(585)
保定难保	(586)
汉事余谈	(586)
梅军门剿匪详述	(587)
俄、德、法近事汇志	(587)
十月初二日(11月23日)	(588)
《申报》	(588)
历稟东省遭乱情形	(588)
十月初三日(11月24日)	(589)
《新闻报》	(589)
[论说] 时事平议	(589)
十月初五日(11月26日)	(590)
《新闻报》	(590)

[论说] 论行新政不必待和局	(590)
《中国旬报》第三十期	(591)
各国时事:伊侯之论	(591)
十月初六日(11月27日)	(591)
《申报》	(591)
论直藩遇害事	(591)
十月初七日(11月28日)	(592)
《新闻报》	(592)
山东诛匪纪数	(592)
《申报》	(592)
黑龙江遇难记	(592)
十月十一日(12月2日)	(593)
《清议报》第六十五册	(593)
论荣禄诡谋	(593)
十月十五日(12月6日)	(594)
《新闻报》	(594)
[论说] 论退还侵地	(594)
《申报》	(595)
阅本报纪西兵酿命事率书其后	(595)
《知新报》	(596)
铁岭战信	(596)
日本责备华事	(596)
奉天拳匪构祸详述	(597)
《中国旬报》第三十一期	(598)
北省大事记:手书照录	(598)
北省大事记:记梅东益剿拳事	(600)
清国官文:陕抚示谕续录第二条	(600)
清国官文:作歌劝诫	(602)
十月十六日(12月7日)	(602)
《新闻报》	(602)
山东缉匪纪要	(602)
十月十七日(12月8日)	(603)
《新闻报》	(603)
山东缉匪纪要	(603)
十月十八日(12月9日)	(603)
《新闻报》	(603)
山东缉匪纪要	(603)
十月十九日(12月10日)	(604)

《新闻报》.....	(604)
山东缉匪纪要.....	(604)
十月二十日(12月11日)	(605)
《新闻报》.....	(605)
山东缉匪纪要.....	(605)
十月廿一日(12月12日)	(606)
《新闻报》.....	(606)
〔论说〕 详论各国拟索条款一.....	(606)
《清议报》第六十六册.....	(607)
张之洞论.....	(607)
驳后党逆贼张之洞、于荫霖诬捏伪示	(609)
十月廿二日(12月13日)	(613)
《新闻报》.....	(613)
〔论说〕 详论各国拟索条款二.....	(613)
《申报》.....	(614)
论各国办理中国之事不可激怒华人.....	(614)
十月廿三日(12月14日)	(615)
《新闻报》.....	(615)
〔论说〕 详论各国拟索条款三.....	(615)
十月廿五日(12月16日)	(616)
《新闻报》.....	(616)
〔论说〕 辩俄军与德军接战事.....	(616)
《中国旬报》第三十二期.....	(617)
北省大事记:详述使相议和情形	(617)
十月廿七日(12月18日)	(618)
《新闻报》.....	(618)
〔论说〕 详论各国拟索条款四.....	(618)
十月廿八日(12月19日)	(619)
《新闻报》.....	(619)
意军破城追述.....	(619)
《申报》.....	(619)
阅报纪德兵残暴事率笔书此.....	(619)
详述京师近日情形.....	(620)
十月三十日(12月21日)	(620)
《申报》.....	(620)
巨匪成禽.....	(620)
十一月初一日(12月22日)	(621)
《新闻报》.....	(621)

目 录

[论说] 论浙东隐患	(621)
《知新报》	(622)
祭刚毅文	(622)
北事琐纪	(623)
章程照录	(624)
英国论华要言	(625)
江鄂纪闻	(625)
直属匪迹汇志	(626)
东省汇闻	(626)
《开智录》第一期	(627)
言论自由录:义和团	(627)
十一月初四日(12月25日)	(627)
《申报》	(627)
论《申报》所纪巨案骇闻	(627)
十一月初五日(12月26日)	(628)
《新闻报》	(628)
[论说] 条款书后一	(628)
《中国旬报》第三十三期	(629)
北省大事记:山东缉捕纪要	(629)
十一月初六日(12月27日)	(631)
《新闻报》	(631)
[论说] 条款书后二	(631)
十一月初七日(12月28日)	(632)
《新闻报》	(632)
[论说] 条款与商务关系说	(632)
《申报》	(633)
论团练之难	(633)
译奥国弭兵社男爵苏德乃来氏致中国驻俄大臣杨子通星使书	(633)
录中国驻俄大臣杨子通星使复奥国弭兵社男爵苏德乃来氏书	(634)
十一月初八日(12月29日)	(634)
《新闻报》	(634)
[论说] 条款书后三	(634)
《申报》	(635)
报纪英练华军因广论之	(635)
十一月十二日(1901年1月2日)	(636)
《新闻报》	(636)
署粤督剿匪奏稿书后	(636)
《汇报》	(637)

译毕大臣致外务大臣书	(637)
十一月十三日(1月3日)	(638)
《新闻报》	(638)
[论说] 论时局近情	(638)
十一月十五日(1月5日)	(639)
《知新报》	(639)
论联军将有决裂之举动	(639)
京师惨祸	(640)
兵燹惨状	(640)
摆卖抢物	(641)
照会录抄	(641)
论俄国与中国政府	(642)
胶湾战信	(643)
《中国旬报》第三十四期	(644)
南省大事记:宁海教案缘由补志	(644)
北省大事记:德人残暴	(645)
《开智录》第二期	(645)
本会论说:论帝国主义之发达及廿世纪世界之前途	(645)
十一月十六日(1月6日)	(648)
《新闻报》	(648)
[论说] 改定税则感言	(648)
十一月十九日(1月9日)	(649)
《申报》	(649)
示安民教	(649)
十一月二十日(1月10日)	(649)
《申报》	(649)
书中国驻俄大臣杨星使论民教不和后	(649)
十一月廿三日(1月13日)	(650)
《新闻报》	(650)
[论说] 取民多寡说	(650)
十一月廿五日(1月15日)	(651)
《新闻报》	(651)
[论说] 续取民多寡说	(651)
《中国旬报》第三十五期	(652)
北省大事记:围攻使馆始末记	(652)
北省大事记:大官可危	(653)
北省大事记:(连)[联]军向近畿州县勒交银数节略	(654)
各国时事:论法人意见	(654)

北省大事记:北京访事专函照录	(654)
十一月廿六日(1月 16 日)	(655)
《申报》	(655)
译西人论俄人占据东三省事	(655)
十一月廿七日(1月 17 日)	(655)
《新闻报》	(655)
[论说] 再续取民多寡说	(655)
十二月初一日(1月 20 日)	(656)
《知新报》	(656)
税司论华	(656)
十二月初三日(1月 22 日)	(657)
《新闻报》	(657)
[论说] 新政为亟务论	(657)
十二月初五日(1月 24 日)	(658)
《中国旬报》第三十六期	(658)
北省大事记:联军纪事	(658)
各国时事:德民舆论	(659)
十二月初七日(1月 26 日)	(660)
《新闻报》	(660)
[论说] 战务有碍商务说	(660)
《申报》	(661)
论本报译登俄人占据东三省事	(661)
十二月初八日(1月 27 日)	(662)
《申报》	(662)
续录奏陈康唐诸逆党勾结会匪阴谋作乱先期破获擒戮渠魁折	(662)
十二月初九日(1月 28 日)	(663)
《新闻报》	(663)
[论说] 论东南人心	(663)
《申报》	(664)
再续奏陈康唐诸逆党勾结会匪阴谋作乱先期破获擒戮渠魁折	(664)
十二月十一日(1月 30 日)	(665)
《申报》	(665)
州县稽查保甲宜先安置游民论	(665)
《汇报》	(666)
列国意见不合为中国之福论	(666)
十二月十三日(2月 1 日)	(667)
《新闻报》	(667)
[论说] 论交涉之案宜公平办结	(667)

十二月十七日(2月5日)	(668)
《新闻报》.....	(668)
〔论说〕 书东抚告示后.....	(668)

光绪廿七年

正月初九日(1901年2月27日)	(670)
《新闻报》.....	(670)
京畿时事汇志.....	(670)
《申报》.....	(671)
论地方绅士之害.....	(671)
正月十一日(3月1日)	(672)
《新闻报》.....	(672)
〔论说〕 论联军移驻保定.....	(672)
正月十七日(3月7日)	(673)
《申报》.....	(673)
保教探原论.....	(673)
正月十八日(3月8日)	(674)
《新闻报》.....	(674)
〔论说〕 论索还东三省.....	(674)
正月十九日(3月9日)	(675)
《申报》.....	(675)
闻报纪公所裁撤事感而书此.....	(675)
正月二十日(3月10日)	(676)
《新闻报》.....	(676)
〔论说〕 论保全机会.....	(676)
《申报》.....	(677)
示禁毁电.....	(677)
正月廿一日(3月11日)	(677)
《申报》.....	(677)
民教宜和.....	(677)
正月廿二日(3月12日)	(678)
《申报》.....	(678)
变法论.....	(678)
正月廿三日(3月13日)	(679)
《新闻报》.....	(679)
〔论说〕 论俄约与议和之关系.....	(679)
《申报》.....	(680)

目 录

论中俄订立密约.....	(680)
正月廿四日(3月14日)	(681)
《新闻报》.....	(681)
[论说] 论俄约与各国关系.....	(681)
正月廿五日(3月15日)	(682)
《新闻报》.....	(682)
[论说] 论俄约与全权关系.....	(682)
正月廿七日(3月17日)	(683)
《新闻报》.....	(683)
[论说] 俄约窥微篇.....	(683)
正月廿九日(3月19日)	(684)
《新闻报》.....	(684)
[论说] 和约、俄约分别办理说	(684)
二月初一日(3月20日)	(685)
《申报》.....	(685)
阅本报纪中俄密约事推广论之	(685)
《开智录》第六期.....	(686)
本会论说:义和团有功于中国说	(686)
二月初二日(3月21日)	(689)
《新闻报》.....	(689)
[论说] 论各国撤兵.....	(689)
二月初三日(3月22日)	(690)
《新闻报》.....	(690)
[论说] 论俄约之归罪增祺.....	(690)
《申报》.....	(691)
述罪员毓贤恶迹.....	(691)
二月初四日(3月23日)	(692)
《申报》.....	(692)
述东抚袁慰帅善政	(692)
二月初五日(3月24日)	(693)
《新闻报》.....	(693)
[论说] 论各国宜先撤兵.....	(693)
《申报》.....	(694)
惩治祸首不宜多所株连说.....	(694)
二月初七日(3月26日)	(695)
《新闻报》.....	(695)
[论说] 论各国查考中国财政	(695)
二月初九日(3月28日)	(696)

《申报》	(696)
沧桑志感	(696)
二月十一日(3月30日)	(696)
《新闻报》	(696)
[论说] 论变政责在督抚	(696)
二月十二日(3月31日)	(697)
《申报》	(697)
论中国依附俄之失计	(697)
二月十三日(4月1日)	(698)
《新闻报》	(698)
[论说] 论变盐法	(698)
二月十五日(4月3日)	(699)
《新闻报》	(699)
[论说] 论俄约应归并和约	(699)
二月十九日(4月7日)	(700)
《新闻报》	(700)
[论说] 论变政宜自士大夫始	(700)
二月二十日(4月8日)	(701)
《申报》	(701)
衡案章程	(701)
二月廿二日(4月10日)	(702)
《新闻报》	(702)
[论说] 论俄谋之狡	(702)
二月廿三日(4月11日)	(703)
《申报》	(703)
密约释疑	(703)
二月廿九日(4月17日)	(704)
《新闻报》	(704)
[论说] 教案清源说	(704)
二月三十日(4月18日)	(705)
《申报》	(705)
阅本报所登俄约早废及俄求订约事试申论之	(705)
三月初一日(4月19日)	(706)
《新闻报》	(706)
[论说] 论改设外部事	(706)
三月初六日(4月14日)	(707)
《新闻报》	(707)
会商善后函稿	(707)

目 录

三月初七日(4月 25 日)	(708)
《新闻报》.....	(708)
善后函稿接录.....	(708)
三月初九日(4月 27 日)	(709)
《申报》.....	(709)
弭教祸说.....	(709)
三月十一日(4月 29 日)	(710)
《申报》.....	(710)
慎重教务.....	(710)
三月十二日(4月 30 日)	(711)
《新闻报》.....	(711)
[论说] 因停试五年有感而论.....	(711)
三月十六日(5月 4 日)	(712)
《新闻报》.....	(712)
[论说] 论一律停试五年.....	(712)
《申报》.....	(713)
观本报纪诸暨教案责令绅士出结事推广言之.....	(713)
三月十九日(5月 7 日)	(714)
《新闻报》.....	(714)
保全盐利议.....	(714)
严办老团补纪.....	(715)
三月二十日(5月 8 日)	(716)
《新闻报》.....	(716)
保全盐利议 续昨稿.....	(716)
严办老团续补.....	(717)
三月廿二日(5月 10 日)	(717)
《新闻报》.....	(717)
保全盐利议 续前稿.....	(717)
三月廿五日(5月 13 日)	(718)
《新闻报》.....	(718)
论缉拿会匪.....	(718)
《申报》.....	(719)
详述孝丰匪乱情形.....	(719)
三月廿六日(5月 14 日)	(720)
《新闻报》.....	(720)
东抚稟批照录.....	(720)
三月廿九日(5月 17 日)	(721)
《申报》.....	(721)

浙江教案章程	(721)
三月	(722)
《中西教会报》第六十九次	(722)
庚子大事记	(722)
四月初二日(5月19日)	(724)
《申报》	(724)
书报纪议抽丁税后	(724)
四月初六日(5月23日)	(725)
《新闻报》	(725)
论时局近情	(725)
《申报》	(727)
诸民闹教	(727)
四月初七日(5月24日)	(727)
《新闻报》	(727)
论弹压京师地面	(727)
四月初八日(5月25日)	(728)
《新闻报》	(728)
论保教必先化民	(728)
四月十一日(5月28日)	(729)
《申报》	(729)
论衡变	(729)
详述扩充使馆事	(730)
《清议报》第八十册	(731)
董贼消息	(731)
四月十三日(5月30日)	(731)
《新闻报》	(731)
永杜教案说	(731)
四月十七日(6月3日)	(732)
《申报》	(732)
约法三章	(732)
蕲案已结	(733)
四月十八日(6月4日)	(734)
《申报》	(734)
论办理教案首重条约	(734)
四月二十日(6月6日)	(735)
《新闻报》	(735)
晋省耶稣教案章程要录	(735)
四月廿一日(6月7日)	(736)

目 录

《新闻报》.....	(736)
书山西耶稣教教案章程后.....	(736)
四月廿二日(6月8日)	(737)
《新闻报》.....	(737)
晋省教务汇述.....	(737)
四月廿八日(6月14日)	(738)
《新闻报》.....	(738)
论撤兵.....	(738)
《申报》.....	(738)
扩充使馆位址章程.....	(738)
四月廿九日(6月15日)	(740)
《新闻报》.....	(740)
英国李提摩太先生上合肥傅相书.....	(740)
教案善后章程.....	(741)
五月初一日(6月16日)	(742)
《新闻报》.....	(742)
论丁税难行.....	(742)
五月初七日(6月22日)	(743)
《新闻报》.....	(743)
论武清县辨减教款事.....	(743)
辨减教款志闻.....	(743)
《申报》.....	(744)
摘录香港教士王炳耀上合肥傅相要政条陈十则.....	(744)
五月初八日(6月23日)	(745)
《新闻报》.....	(745)
论东三省作公共通商口岸.....	(745)
东人函论照录.....	(746)
《申报》.....	(747)
续录香港教士王炳耀上合肥傅相要政条陈十则.....	(747)
五月初九日(6月24日)	(748)
《新闻报》.....	(748)
东人函论续录.....	(748)
《申报》.....	(749)
照录岑大中丞清理山西教案章程.....	(749)
五月初十日(6月25日)	(751)
《申报》.....	(751)
照录京师《新闻汇报》所登办理山西教案电文.....	(751)
会匪猖狂.....	(751)

五月十二日(6月27日)	(752)
《新闻报》	(752)
论近来督抚之难	(752)
五月十五日(6月30日)	(753)
《申报》	(753)
节译西报论中国偿银事	(753)
五月十八日(7月3日)	(753)
《新闻报》	(753)
论洋盐入口事	(753)
《申报》	(755)
直隶匪患	(755)
五月十九日(7月4日)	(755)
《新闻报》	(755)
论盐商不顾后患	(755)
五月廿一日(7月6日)	(756)
《清议报》第八十四册	(756)
匪惊叠志	(756)
五月廿五日(7月10日)	(756)
《新闻报》	(756)
论各省贫苦情形	(756)
六月初一日(7月16日)	(757)
《清议报》第八十五册	(757)
匪惊再志	(757)
六月初五日(7月20日)	(758)
《新闻报》	(758)
论东三省变局	(758)
六月初六日(7月21日)	(759)
《新闻报》	(759)
粤督陶制军覆广学会李提摩太书	(759)
六月初七日(7月22日)	(760)
《新闻报》	(760)
粤督陶制军覆广学会李提摩太书 续昨稿	(760)
六月初八日(7月23日)	(762)
《新闻报》	(762)
读粤督覆书感论	(762)
《申报》	(763)
论报纪两教相残事	(763)
六月初九日(7月24日)	(764)

目 录

《新闻报》.....	(764)
以矿利抵洋债说.....	(764)
六月十一日(7月26日)	(765)
《新闻报》.....	(765)
论房捐.....	(765)
《清议报》第八十六册.....	(766)
匪惊三志.....	(766)
六月十二日(7月27日)	(766)
《申报》.....	(766)
备荒政以遏乱源策.....	(766)
六月十三日(7月28日)	(767)
《新闻报》.....	(767)
论俄藏交涉.....	(767)
《申报》.....	(768)
论总署改为外部.....	(768)
六月十六日(7月31日)	(769)
《新闻报》.....	(769)
书昨报力阻增税后.....	(769)
六月二十日(8月4日)	(770)
《新闻报》.....	(770)
直藩绎和民教函稿.....	(770)
《申报》.....	(771)
直隶布政司周瀚如方伯请主教牧师禁约教民函牍附驻京樊主教覆函.....	(771)
六月廿一日(8月5日)	(772)
《申报》.....	(772)
约束教民告示.....	(772)
《清议报》第八十七册.....	(772)
匪惊四志.....	(772)
纪联庄会之关系.....	(773)
六月廿二日(8月6日)	(774)
《申报》.....	(774)
照录天津《直报》所登直隶总督李傅相互通饬各州县办理教案札稿.....	(774)
照录京师《新闻汇报》所登驻直隶正定府包主教覆周玉山方伯函牍并附送约束 教民谕单.....	(774)
六月廿五日(8月9日)	(775)
《新闻报》.....	(775)
直藩详稿照录.....	(775)
直藩致函照录.....	(776)

六月廿六日(8月10日)	(776)
《新闻报》.....	(776)
直藩详稿续录.....	(776)
六月廿七日(8月11日)	(777)
《新闻报》.....	(777)
劝谕教民文稿.....	(777)
六月廿九日(8月13日)	(778)
《新闻报》.....	(778)
美国李佳白民教相安议.....	(778)
七月初一日(8月14日)	(779)
《新闻报》.....	(779)
美国李佳白民教相安议 续昨稿.....	(779)
七月初二日(8月15日)	(780)
《新闻报》.....	(780)
美国李佳白民教相安议 再续前稿.....	(780)
七月初七日(8月20日)	(781)
《新闻报》.....	(781)
傅相复书照录.....	(781)
《申报》.....	(782)
直藩文告.....	(782)
七月初八日(8月21日)	(782)
《新闻报》.....	(782)
傅相复书续录.....	(782)
七月初九日(8月22日)	(783)
《新闻报》.....	(783)
定州教案详述.....	(783)
七月廿一日(9月3日)	(783)
《新闻报》.....	(783)
照录直藩善后谕贴.....	(783)
七月廿二日(9月4日)	(784)
《新闻报》.....	(784)
续录直藩善后谕帖.....	(784)
七月廿三日(9月5日)	(786)
《新闻报》.....	(786)
再续直藩善后谕帖.....	(786)
七月廿四日(9月6日)	(786)
《新闻报》.....	(786)
三续直藩善后谕帖.....	(786)

目 录

七月廿五日(9月7日)	(788)
《新闻报》.....	(788)
四续直藩善后谕帖.....	(788)
十月初一日(11月11日)	(789)
《清议报》第九十七册.....	(789)
帝国主义.....	(789)
十月十一日(11月21日)	(792)
《清议报》第九十八册.....	(792)
帝国主义(接前册).....	(792)
十月廿一日(12月1日)	(795)
《清议报》第九十九册.....	(795)
帝国主义(接前册).....	(795)
十一月十一日(12月21日)	(800)
《清议报》第壹百册.....	(800)
帝国主义 续前稿.....	(800)

光緒廿九年

三月初一日(1903年3月29日)	(804)
《湖北学生界》第三期.....	(804)
[论说] 论中国之前途及国民应尽之责任.....	(804)

光緒三十四年及以后

1908年	(809)
《中兴日报》.....	(809)
孙中山:论惧革命召瓜分者乃不识时务者也	(809)
1918年10月15日	(811)
《新青年》五卷五号.....	(811)
陈独秀:克林德碑	(811)
1924年9月3日	(816)
《向导》第八十一期.....	(816)
独秀:我们对于义和团两个错误的观念	(816)
述之:帝国主义与义和团运动	(817)
和森:义和团与国民革命	(824)
大雷:列宁与义和团	(826)
1924年9月7日	(827)
孙中山:“九七”国耻纪念宣言	(827)

1925 年 9 月 7 日	(830)
《向导》第一百二十八期	(830)
秋白：义和团运动之意义与五卅运动之前途	(830)
1926 年 8 月 8 日	(835)
《政治生活》八十、八十一期合刊	(835)
瞿夫：鲁豫陕等省的红枪会	(835)
后记	(839)

光緒廿六年

七月初一日(1900年7月26日)

《新聞報》

訂約保護

旅寓榕垣各國洋人，因北方拳匪倡亂，深恐閩省亦有不逞之徒乘機竊發，當各稟請本國調兵前來保護。而閩省軍、督二憲聞知後，又恐各兵艦到時民心震動，因飭洋務局總辦楊觀察向各領事官一再婉商。略謂貴國如派兵艦莅閩，反使民情驚駭或滋意外，不如由華官竭力保護，派兵分駐各領事署及洋行等，嚴為防衛，庶無他虞。聞各領事俱欣然允許，訂期上月某日由軍、督二憲率領司道以下各官，親臨南台广东會館，会同各領事訂立約章，互相畫押。旋經軍、督二憲會銜出示曉諭文曰：“鎮閩將軍善、閩浙總督許為出示曉諭事。照得前准各國領事照會，現因北方拳匪滋事，是以各國調兵來華，專為保護、彈壓，并無別意等因。查福州地方民情向稱安靜，各國商民在此極為和好，本將軍、本部堂現與各國領事商明，所有各國寄寓福州官商教士人等身家財產，必當竭力保護，以期中外相安。業經分派弁兵严密巡查，責成地方文武各官切實遵辦。倘有无知匪徒胆敢亂造謠言，希圖煽惑，乘機滋事，即行查拿，從重辦罪，決不姑容。為此示仰閩省軍民人等一体知悉，爾等須知中外和好決無別意，切勿造言生事，自取罪戾，其各（慎）[凜]遵毋違”云云。想此后福州亦當安如磐石矣。

《中外日報》

[論說] 覆不平子及彭君諸人函

辱蒙不棄，遠賜箴規。嗚呼！天禍中國，凶亂驟起，津沽之間，死亡枕藉，薄海人民，誰不痛叹？然團匪不足責，即今日諸賊臣亦不足罪。遠之則三數十年之士大夫，近之則東南明白時局之督撫，實執其咎。蓋先則不能持正以治民教交涉之案，而使民積怨于外人；又不能開通利源使民切齒于失業割地賠款之不慚，而忿怨積于下，則前次士大夫不能善外交飭內政之故也。今也奸慝處政府，而與國同休戚之大臣，不能畢心協力鋤而去之，則此數督撫實不能辭其咎。然今日之匪黨，謂為積忿之民則可，以為仗義之民則不可。蓋自古以

来在下之人忽创非常之原，而不见罪于清议、不见议于后世者，皆有义可执、有名可立者也。今则不然，非有国家之命令，非有确然不可忍之故，而猝举大事，其为祸始则行之无本矣。中外相处初无衅隙，乃乘民间之小忿，烧教堂，杀教士，则出之无名矣。不辨何国，不问何业，同遭焚戮，共被抢掠，则过于鲁莽矣。电线、铁路，中国产业亦毁坏无遗，甚至华人服用外洋之物亦须褫裂，则失之不辨矣。何况震惊朝庙，戕杀无辜，坏太平之局，贻宵旰之忧。诱童孩使陷锋镝，则失之不仁；行邪术而无实效，则失之欺诳。是虽甘蹈水火而贻累国家，罪已擢发。且天下有就事办事之法，有就事论事之法。而来书反谓此事本之宫庭，何以抹煞？抑思此事岂吾国家所能任受乎？夫列国使臣忽无故拘戮，虽在英俄之强尤不能任，而况在积弱之中国乎？又谓本报不应专铺张各国战功，而于华兵及团民战功多抑而不书。不知各报纵未尽确实，然已十得八九。此次大沽炮台力守至六点钟，攻租界之兵力战至十余日，皆不易得之事，而在中尤为创见，此足为中国战事之进步。然如此已极难，故西人亦时时赞之。若如外间谓西人死数万，轰去兵船十余只，则虽以西国久练之兵犹未能如是，况聂董之军成军未几者乎？至谓拳匪种种神奇尤不值一笑，稍明事理之人即知之。试观古来成大事者，从无倚仗邪术之事。而以邪术惑人者，虽其初煽动颇众，亦终无能成大事之理。历观古史，皆有明证。至来函所驳，多系本馆译报项下之事。不知译报一门类聚本埠各西报译而登之，以见西人举中国之事如此，论中国之事如彼，使当事者得闻而预为之防，非谓西报所言语确实也。吾华人盛于气而暗于事，骋于辞而短于谋，虽蹈死如饴徒长乱阶，亦可悲矣。诸君子志存自立，不甘下人，实所钦佩。所愿平日深察事理且究心时局，庶临事明察不至复有舛谬，则本馆所深望者也。因各省志士往往不免为此等谣言所动，故不惮烦言辨之，如此尚望察之。

《申报》

救时策

呜呼！我中国时至今日，危矣！殆矣！从前偶与西人龃龉，势均力敌，未必强弱悬殊也。乃一战英而缅甸弃，一战法而越南亡，一战日本而台湾失、巨款偿。论者谓，中国之兵未必不可用，皆由执政者狃于和议，漫无整备，遂至为敌所乘。诚哉！探原之论也。夫以中国幅员数万里，人丁四万万，而竟不能与他国抗衡，且不能与藐小之岛国争胜，更遑论聚众强国而与之敌耶！乃拳匪之变，坐令环球诸强国协而谋我，聚而攻我。无论以一服八，必不能胜。即幸胜矣，而各国势成骑虎，各出其坚船利炮，同心协力以求逞其雄图。从此祸结兵连，势不至灭此朝食不已。况德国自使臣克林德被害以来，德皇积怒甚深，日夜以雪恨复仇为事。每遣一兵舰，必亲临勘勉，则其军士之忠勇奋发，可想而知。今复助以群雄之力，大局岌岌，其能幸保瓦全乎？顾鄙人窃以为中国之患不在德国，亦不在英、法、美、日诸国。所可忧者，惟俄耳！俄自占据旅顺、大连湾后，处心积虑，无日不思逞志于东方。此次义和拳匪扰及京津之始，驻京各国使臣以中国政府不允雕剿，议向本国征兵为自卫之计。俄使以为时尚早却之，而实则先已电达俄廷，故当祸起仓皇，俄兵到者独较他国早而且多，其心之叵测如此。迨后日本以邻近中国，拟先调集大军救护各国官商。英政府方感其盛意，作书褒美，而俄人独阻之。后虽声明恐日本恃其兵众多不与各国同谋，岂真由衷之

语哉？盖自西伯利亚铁路可通至吉林、牛庄等处，俄人常思席卷而东，只以中国无隙可乘，故尚静以有待耳。一旦得所借口，而各国统将又以俄提督资格最优，奉为盟主，愿归节制。俄人私心窃喜，自谓可以惟所欲为。嗣见各国不欲瓜分中国土地，未便独肆狡谋，乃复与黑龙江将军寿军帅开衅。日前珲春来电，谓军帅领兵过江至俄国属地，开炮猛击。俄人亦调兵过江，轰击黑龙江附近之某城。华兵复在江边排炮多尊，不准俄船行驶。骤观此，信似军帅难免卤莽之讥。然安知非俄人有意激怒，将藉此以为口实，以示与各国联军不能同一办理之张本，而其奢愿乃可以偿。故至此而谓俄于中国无割地之意者，吾不信也。而或者乃欲联俄以纾祸，引虎入室，岂不谬哉？然则为中国计，将奈何？曰是亦惟联合英、日、美三国以遏俄谋，而平各国之愤而已。美国素不以拓土开疆为事，五月二十一日大沽炮台之战，独向劝阻，后卒不与其役，是宜邀请调和战事，本报前论既详言之矣。然事关众怒，恐非一国之力所能见功，故莫若再结英、日以助之。近闻中国政府已有此意，尝颁发国书与英言经商之利，与日言唇齿之谊。盖英国在扬子江一带商务冠绝一时，今自拳匪肇乱以来商务骤然减色。若复相持日久，振兴更觉为难。英人未必不见及于此，诚使中国动之以情，激之以义，自必力为匡助，挽回危局，以自保其利权。日本谊属同洲，唇亡齿寒，素知以虞虢为戒。平时于俄人一举一动加意防维，且常悯中国不能自强，思为臂助。今日击俄方谋得志于中国，而独不忍区区书记被戕之愤，坐视不救，当无是情。至谓英、日、美三国与各国本系同仇，安肯贸然出为排难？则应之曰，是在当轴者因势利导耳。矧今者各国之兵，名虽联络一气，实则未始不心志各殊。故除剿匪雪耻之外，可决其别无他图。惟俄人诡计阴谋，跃跃欲试。英、日、美三国知之，其他各国亦共知之，则与其效捕蝉之螳螂，而令黄雀得乘其后，何如留此交谊，共保万全乎？略抒管见，质之关心时事者，以为何如？

《知新报》

拳匪汇志

探得神机营、虎神营均奉懿旨，各赏给银十万两。武卫军前已赏四万两，又加赏六万两。初一日，中国有总督六人致电美廷，请各国暂时停战，俟李鸿章至北京与之调停。美廷不肯代达于各国。各国统兵大帅悬重金以购端王之首。

安徽某提督入都陛见，附近京城地方，团匪喝令止步。某提督抗言：“汝等既称为国出力，我提督独非大清官乎？”不顾而去，团匪衔之。越日，提督抵京谒客，乘车至宣武门，遇多人拽出车杀之。又天津城已为西军占据，西军阵亡六七百名，两湖巡抚统军北上。专电云：闻西后未赴颐和园之前，曾面谕董福祥务须保护洋人，答以臣亦义和团等语。又西日前有密旨下江督刘制军，令撰国书，寄英、俄、日本三国，略谓前因乱兵猝起，延及都城，焚掠财物，戕杀人民，并累及各国使馆，西后、皇上均极抱歉。现由敝国竭力将乱党剿除，如力有不逮，再请外兵协助云。此项国书由江督寄交驻扎三国钦使，转呈三国君主。闻尚须补备一份送呈美国总统。其余各国，则请三国出为调停。

按西后既知拳匪应剿，何不当初剿之？既知洋人应保，何不当初保之？今大局已烂，乃欲以一书塞责。书中并云皇上均极抱歉。试问干皇上甚事？皇上之权为训政者所持，五洲莫不知之。今虽欲分过于皇上，窃料各国必不问皇上，而仍问训政者也。

docsriver文川网
入驻商家 古籍书城

在文川网搜索古籍书城 获取更多电子书

北京各西人已同归于尽之信，现亦无须再为瞒蔽，盖此信恐已确实矣。据英总领事悲惋而言，京中各西人性命现已无可指望，而道台亦与此说相同。所愿内中或使臣或洋人尚能脱逃，如前者牛弗儿君从苏丹逃出时无异，则甚深望耳。并据华人云：北京被围，各西人食物、军火业于前月三十号告尽。端王手下人即入内肆行焚烧，尚有一切言语，悲痛之余亦难尽述。各使臣、各教士、各关员、各教习等姑不具论，所最痛者妇稚三百余人竟无辜遭此惨祸，殊可悲也。此种恶毒举动，自有史书以来，通地球中实未之见。兹惟为伊等祷告上帝，遭难之辈死则从速，毋徒受活罪而不死，并望请伊等仇恨不久即为报复。

昨日本埠东友接烟台电云：此间传闻庆王因力保各国使馆之故，被端王纵兵戕害。又电云：东抚袁世凯已宣告当尽力保护西人，惟劝各西人暂离内地，以免不测。又云：聂军进京，与董军大战，已救出庆王。又探得裕制军有致电各省督抚云：大局已不可收拾，惟有拼命一战，或有万一之希冀云云。又闻北京拳匪与华兵联合一处，探悉西兵往援北京之信，早已筹划计策，三路夹攻以阻西兵进路。当议定由董福祥军门率其所部甘军，在天津北面六十英里之黄村地方扼守，以抵各西兵之前。而聂功亭军门则率其所部，现在驻扎于天津东面二十英里之直隶，兵士抄出以攻西兵之右。并拳匪一大队由芦台聂营中配足新式军装，即往袭西兵后路。惟留空左边，盖该面适当铁路也。

又日本东京《日日新闻》登大沽来信云：大沽炮台失陷之后，各国提督会议将此炮台归日本兵驻守；西北炮台归英国驻守；南炮台共三座，一归俄国兵驻守，二归德国兵驻守。目下俄国有守台兵三百四十名，英国兵士二百名，日本兵士三百名。北炮台在白河之口，颇占形胜，日兵驻守其中。搜得华军所遗电灯，每夜间必大放光明，远照数里之外。

本馆西字报接上海访事二十日五点十五分钟来电云：西军已占天津西船政厂。此役日军力最多，华军伤亡甚众。又同日九点四十分钟又接电云：十五晚华军往攻东船政厂，该处有俄军驻扎，相持六点钟之久，华军卒被击退，刻下西人合军进攻天津城。该城有一隅为日军将华军击退，英、美两军又向别处猛扑，现已入城占据矣。

又云：俄国现调到兵士四万人，马三千匹，军火无数，向京进发。又云：本月十一日，日本与团兵大战两昼夜之久，团兵死伤无数，日本兵亦死伤不少。闻天津西岸炮台暨军械局已经华兵夺回。又云：日本现有人回国，添调重兵，前来剿灭拳匪。

自京津电线割断，消息不通，后南省各督抚均委派委员至上海暨济南府以及他处紧要地方，坐探北省音信。闽督许制军所派驻沪两委员于十一号接到本月七号信云：聂军门督兵九千人业已抵京。当拔队行时，因团匪暨端王之兵由天津至京一路，在在皆有。恐与相遇，故绕道东北，由遵化府南面经过宝坻，向京进发。讵行至离通州一百十二里之某处，忽遇端王之兵前来阻截，不准前进。盖因庆邸、荣禄业由团匪围住，端王深恐聂军到时援救，故特派兵以阻之也。幸聂军俱极精锐，枪炮瞄头极准，故端军虽多，亦无所济，竟为聂军击败，由是军门遂乘胜进京，以救庆王。然聂军部下已伤折二千人矣。目下荣禄尚被围甚急，军门亦往解救矣。京中只有两使馆尚存，除德使被戕外，余各使臣均未遭害，即在所存之两使馆中躲避。目下聂军既已到京，当可将各使臣等救护矣。军门现拟与庆王及荣禄所部各军会集，合力以驱围攻使馆团匪。所幸北京团匪势焰稍衰，十成中已减其四，故团困使馆亦较前者大松矣。端王兵士与西直隶及陕西所来之团匪，已自相攻打两次。该队匪目李来中籍隶陕西，为直隶匪中最著名之头目，即董福祥军门手下之武弁也。董军门现

亦自行带兵驻守京津一路。又闻七月五号皇太后由颐和园中，潜地传出亲笔密谕一道，着荣禄与聂、宋两军联合，先救各使馆，后即攻剿端王暨剿团等。

客云：当各国致哀的美敦书于大沽炮台时，惟美提督不允签字。其言曰：“中国此际慎固封疆，坚守炮台，于公法并无不合。且以夺地论，目前固非难事，惟夺之虽易，守之则难。盖中国地势，利通商、不利战争，如师老而无功，饷糜而情敝，某窃为诸公不取也。”事后人咸服其有先见，当攻打炮台时，美兵舰早经抽出，不与其役，及事毕，仍行驶回。凡中西兵士之受伤未死者，悉为救出。以上录《上海报》。

译西报论华事

伦敦《太晤士报》云：此次中国之乱，所恨者我英因南非洲军务未平，不能出其全力办理。所望南非军务早靖，趁此全军未经遣散之际，即可移往东方也。惟观中国此次之乱，虽不敢指明西太后有偏袒拳匪之事，然致令拳匪蔓延若是之广，势焰若是之狂，中国政府竟尔无能为力平靖土匪，足见其昏懦无能。前此虽有人赞太后有才，然细为详观，不收罗党羽，过以包揽其权势而已。所以此次欧洲各国若将拳匪办楚，必断不再将其权归还太后，亦断不可再令此老妇人干预朝政。若将太后之权卸去，窃料中国数百兆之人同心欢跃，再扶光绪圣主重登宝位光复新政也。惟光绪皇帝复位之后，其内外所有大臣率皆昏懦无能，求其深谙政体、办理交涉事务者，殊觉寥寥无人。势不能不借助于外国人（材）[才]，为之协理，窃料华人亦无不同心欢跃其有是事也。盖此时中国之大员，实心报国者仅有三四人，屈指可数，其余皆不过顾禄位保妻子而已。所以此辈俱当勤令休致，方望可兴。而光绪帝必须召用新党，以及香港、南洋一带有经济之华人，充补其缺。此外更须聘请日本伊藤侯为相，赞理枢机，以各国所有大臣深知中国情形者，当以伊藤侯为最。其海关总税司一缺，自当仍归赫总税司办理。其户部大臣一缺，则无过于以代理香港汇丰银行之总办惹申君补授，因惹申君之为人，中国人无不深信之也。其现在办理中国火车路之总办根打君，以之补授工部大臣，兼办矿务大臣，甚属相宜。至若办理火车局事务，免致各国争相包揽者，则莫若以现任管理巫来由属地之辅政司瑞君其人。其中国练兵一节，则当以买里士福君为兵部大臣，因买里士福君前曾游历中国，深知华兵优劣情形故也。至于将领偏裨之员，须由各国商议参用，庶免纷争。其现在中国已成之营兵不得全行裁撤，须择其年强力壮者充作兵勇，并为巡捕等差，以为保卫闾阎之计。其余则派交工部大臣，以之开造火车路，修整黄河等工最为合式。至于总统中国兵权之大员则不可延聘外人，须以中国人之有大（材）[才]者掌之。另再设立武备学堂，教训华人少年子弟，将来学业有成，自能办理军机，庶不至时求他国将领为之训练。其海军一节，无庸多增，因中国地方甚大，不必更求海外之地，只须巡缉内地河道及沿海一带海口，俾免海盗横行而已。若以此时中国海军论之，尽足敷其调遣也。其余目下中国地方官虽奸贪昏庸者甚多，然其中亦不乏束身自爱、实心为民之人，果能增其廉俸，严其赏罚，亦可以暂时任用。以后民间另有各等学堂，由其中拔取而用之。不出二十年，吏治自不难蒸蒸日上矣。至论此次乱事，所有杀害外国人民，焚烧外国屋宇等项，各国自必纷向中国索赔偿。然新党之人不必与之理论，但须邀请欧洲各国及日本素有公正声望之大员，请其代为酌议调停，赔恤若干，自不难于了事也。此次之乱，较之上年其克烈底之乱，其办理艰苦之处

不啻增有一千倍之多。殊非欧洲一大国之人所能办，且非合中国之华人，亦不能办也。录《天南新报》。

津事详录

接上海友人十五日手书云：据周君寿臣由津回沪，称自五月廿一下午起，忽有弹子坠落租界。初不知自何而来，所见弹子打过河东一边，人以为外国兵攻对河武备学堂。不料，乃是聂军门之兵来攻租界。初时其弹从高处飞过，及后似有把握，多中租界屋宇。洋人疑是界内有华人通奸，故所有中国人俱在被疑之列。后因张京卿燕谋之屋左近有白鸽飞出，又疑其用白鸽通传消息。于是先将张京卿拘住，后铁路总办唐少川亦被拘执，随后卢某又被拿。当时按军律审讯，按察已判定律以死罪。后有一人云“须再查明方可”，因而中止。迨查得此三人被禁之后，华兵依然如此攻击，始显知非界内人通奸，疑团略释。但各华人被搁留在屋内，不许出门，防其传递消息，故各人全无音信寄回。查得租界之内男女老幼约有千余人，分开各地方居住。太古行三四百，招商局二三百，怡和行约二百，高林行约二百，开平局约三四百，中国银行三百左右。是时各人俱不许出外，而亦不宜出，因炮弹横飞，不可出者一也。外国兵或误会燃枪相击亦未可知，又或强令做粗工，如搬死尸、运米包、挑水、倒粪等事。而周寿臣因改扮洋装又入美籍，所以各兵官与彼认识，绝无猜疑。此次得其救活多人，因华人所住各处火食缺乏，水亦告竭，周乃时常通知洋官设法供给。各人日中所食者，大米、花生两样，油、盐亦均缺乏。太古行之人半是染病，因多食花生粥而致腹泻。

先是北平船到紫竹林，约有二三百人，已经落船听候开行。但河道不通，两旁皆贼，在在堪虞。是以未敢启行。各人在船上两日一夜，此船为炮弹所中者七次，所幸弹由上而落，只跌下船面，船身未坏。船上各人因此慌忙无措，皆复走回岸上分散，在以上所列数处居住。张京卿与唐少川初禁于太古行之小房，后得放归其本宅，仍受软禁。法租界几于焚烧净尽，美租界约烧去二三成，今仍日日相攻。周寿臣初十下船之日，仍见复来攻击。其在天津下船时与洋人一队男女大小约四百人同舟南下。迨至塘沽，先到美国兵船住一宿，越日适有公司船“海龙”驶至，提督命该船载此船人往长崎。因在大沽时传闻烟台已烧毁一空，上海亦焚烧约半，所以提督令各人往东洋去。恰于未开行之先，适遇“新济”船到，方知上海并无动静。即此观之，至近如上海，虽是提督亦无确耗相通，可见信息传递之难。“新济”到沽时，该提督谓各人云：愿往上海者则赴上海，欲往东洋者则赴东洋。因是有百余人在上海，余往东洋，而天津留下之千余华人待船甚急，望眼欲穿。太古行亦拟放两船北上，招商局大约亦续派船前去。在租界之同乡各人闻皆无恙，但闻唐君少川之妻女俱被弹子击毙。其余名望之人，未曾闻得有谁死于难者。裕禄与黄花农大概逃往保定，惟未有确据。

其头次打租界者乃聂军，打至数日，其兵死者、散者不知凡几。一二日又复有军来攻，闻系马玉昆之兵，由山海关到者。今租界之外，中国地方多被烧毁，变为一望平阳。当初拳匪趾高气扬，见有官宦乘舆而过者拖拽出轿，去其冠，申饬一番乃放之去。百姓畏之，焚香跪迎。凡有用洋式之物，皆不准，即如洋伞之类亦必抛掷之去，东洋车因有外国牌捐洋字码，多被毁坏，后改粘“太平车”字样乃得无事。至广东人尤为受害，因以洋人视之，其待

粤妇也尤惨，其缠足者斩之。男女死亡甚众，尸积满河，有断臂者，有斩手者，又有多尸从城里上游流下，沿河臭秽异常。靠河水之供饮食者，殊不可耐，所幸近日雨水略多，聊资沾溉。此次中国之兵打仗，颇为奋勇，虽租界未能攻入，而确有舍命不顾情形。故西人谓华兵与东洋接仗时，果如此认真，断不至积弱因循，至有今日之祸云。现西兵陆续调到，大概待有兵十万八万，乃一齐进京。闻塘沽一带民房全行焚毁，惟招商局货仓屋宇未坏，但货物全已抢夺清楚。天津各洋行及招商局栈房几乎无一间不受炮弹中伤，尚幸未有倾塌。货物有失去者，亦有未动者。大约兵制以英、美、日三国为最严，不乱冒犯中国人，亦不乱抢夺物件。德国兵向来颇好，惟自闻德使被戕后渐变残酷，殆仇愤使然耶。录《华字报》。

专电又云：华人自六月十七号起，开炮轰击天津。至二十三号止，计被轰击六日。西兵来解围者，计英兵三百人，俄兵一千七百人，由铁路断处一路攻入。至离津三英里地方遇有美国援兵三百人，该兵等起程较英、俄两国兵士先行三日，当即合兵一处，一同攻进天津，围遂解。当时华兵之轰击天津者，共有一万二千人，大半系聂军门由芦台调来之部下洋操兵。所带多毛瑟快枪，并有极好炮队。该兵即将新式各炮安置于天津城内炮台上面，贴对紫竹林租界。该炮台为华人特地私建，西人所未经知晓者。台上有一极大之炮，当该炮轰击租界时，洋人称之为太后炮，此外又有小炮三尊。其太后炮共开有五百门，租界房屋无一处不被击毁者，惟西人只被击毙三人。某日接连开炮，直击有十二点钟之久始已，所有妇孺等俱在戈登堂及附近小屋躲避。西兵与华人接战，于六月十八号在铁路车站处一仗最厉，俄兵二千名内竟死伤五百名。华人此次甚勇敢，为从来所未见。向尚不信其有此耐战之心，目下观之，彼等之勇猛及耐心之处，较被围西人之心更胜矣。录《中外日报》。

会议保护

鄂督张香帅会同江督刘岘帅派候补道陶观察来同盛京卿，与驻沪各国领事关道余观察以下中西各官四十二人在洋务局会议时事。闻系保护长江各口租界，昨日已见本馆传单。兹闻议定长江一带概归中国派兵驻守，保护各教堂西人等财产，而西国兵舰则不得驶入扬子江口。诚恐居民惶惑，致有他虞，本埠租界则归各西商团练兵保护，吴淞口则归中西各兵互相驻守，界外一切教堂及制造局等处概由台道派兵保护。各已允约签字矣。想此防护妥善，南省一带保无虞也。录《同文沪报》。

《清议报》第五十二册

义和团滋事五志

六月十八日上海电云：浙江省温州租界地之外国人多逃往别地，其地之地方官最好排斥外人，故煽动乱民使屠杀外人。现时其地有三千暴徒，且有军队一千人执武器，在炮台有欲发炮轰外船之势。又云据湖北省宜昌来电，谓湖南衡州有乱徒暴动，杀害意国牧师二名，其牧师之姓名不详。

十九日上海电云：初十日（一说十二日）在北京之诸公使及外国人被杀害云。又云李鸿章、袁世凯、盛宣怀等始与诸外国之代表者判议。又云上海美国领事接得盛宣怀之报，谓各国公使及外人皆被杀戮。又云德国派遣礼士路将军统率步兵八个大队、四个中队来

中国。又云英国巴兹将军率引百四十名之威路士精兵，附泰山火船由香港往大沽。又云盛宣怀恐匪徒掠夺其家产，故现已买燕梳保险。又云上海有某某外国商人贩卖军器与华人云。又云十六日袁世凯打往英领事之电报，谓二公使及斯加(外国客栈名)皆无事。又董福祥之部下士官战死者五名，其余兵士战死者甚夥，且外国护卫兵乘夜袭击董营，兵士死伤者百名以上。又云李鸿章、袁世凯、盛宣怀三人皆阴为端亲王造事，而阳则故表好意于外人。又云李鸿章于廿一日，以安平火船由广东来上海。又云昨十八朝，天津城被外兵所破，外国联合军死伤约六百人。芝罘电云：英、美、日三国合兵在一处，俄、德、法三国合军在一处，夹攻天津城。至十八日晚，日本军占领天津城。德、俄不能入。外国联合军死伤六百人。又云据美国舰队旗舰之报，谓十六日天津所有之炮台悉为外国所破，只遗一个不落而已。伦敦电云：据赊摩将军之报告，谓联合军于十二日在天津租界地之东南方攻击兵匪之阵地，日本兵将中国包围困，且获炮四门，日本骑兵追逐兵匪不遗余力。又外国联合军将西机器局烧毁，并掠夺大炮二门。兵匪之战死者三百五十名，外国联合军损害甚轻少。其后十四日有大队华兵袭击铁道车站，与外兵相持三点钟之久，遂被联合军所击退。联合军损害百五十名，华兵损害甚巨。

二十日上海电云：湖南、湖北、河南各巡抚均奉端王之命，张之洞不能统御之云。又云前报所传之浙江暴动不确。又云有列国联合巡洋舰五只于十四日侦探山海关，有少许被中国驻在山海关之防守兵所发见。又云天津之西机器局于十一日被日本骑占夺。又联合军攻击天津之中国兵掠得大炮四门。又云聂士成经已战死。又云在汉口之德人得接德皇回电云，今已遣军舰往中国，方在途上，并续发数艘保护扬子江云云。

二十日上海电云：湖北省襄阳府之加特力教堂于十四日为暴徒所破坏，传教师悉遁走。又云河南省南阳府之教堂被破坏，僧正及十二名之传教师甚危。又加拿大长老教堂之传教师二十名，于南阳府之东十里之地，十二日为匪徒所袭，尽夺其所有。又云有意大利传教师十二名在河南省南阳府被暴徒所围。又云于袁世凯身上有两个风说：一言袁世凯与董福祥战于通州，获捷；一由德人之报，谓山东省之传教师尽被暴徒所杀，一人不存，袁世凯亦被杀云。又云据香港电，言英国运送船乃伦搭载烹渣布步兵一队向北方行驶。又云有名保守派湖北巡抚及湖南巡抚之二人共服从端郡王之敕诏，决意排外(搔)[骚]扰，已起于湖南、湖北两省。湖广总督张之洞恐不能制御之。又河南巡抚亦服从端郡王之命令云。伦敦电云：意大利约发五千兵来中国，其第一次以西历七月十八日(即中历六月廿二日)起程云。

二十一日上海电云：汉口至九江之电信不通。又云两江总督刘坤一以上海税关长梯拉氏代赫德任临时总税务司。上海之列国代表者承认刘坤一为正当之中国政府代表者。又云十六晚日本兵爆发天津城门。翌日午前一点钟击入城内，华兵损害无算。日兵在城内掠得货币约百五十万两，焚烧街市。外国联合军之损害者七百七十五名。又云田庄台之俄兵被驱逐，目下集合于牛庄。

廿二日上海电云：中国兵由齐齐哈尔发炮进击黑龙江岸布拉哥非钱斯克。俄兵烧毁希林布中国街。又云据上海中国《加捷脱报》得接香港特电，言李鸿章于廿一日下午八点钟，乘安平轮船到香港，往拜访香港政厅。英国总督布力克氏及诸将军等接见会议，于席上惟总督布力克一人与李鸿章对语，总督将李之语转告诸将军等。席次言及李总督近日

得接西后来书，书中载诸公使皆无事，唯德国公使一人被害而已。又布力克总督劝李氏留止广东不可北上。李答以不可不趋君命，今必由香港先至上海，后往北京。且云去后广东亦必无事，请各安心等语。又云李鸿章转任直隶总督，军机及总理衙门大臣刚毅代李鸿章为两广总督。又云天津之战，中国军中亦有外人，一外人战死，二外人被联合军所虏云。又云天津之战，日本兵掠得货币二百万两。又云前御史杨崇伊（刘学询之师）受端亲王之密命往南京，至其所造何事则不明。又云聂士成已死，其部下之兵转属于马玉昆之下。又云据江西通信，景德镇之教堂被破坏，华人之基督教徒被杀害，传教师等由饶州及抚州逃去。福州电云：十六日福州之西北古田地方，有顷菜匪之暴徒作乱，杀害华人基督教徒三名。幸外人先已引去，不至受祸。目下闽浙总督派兵若干镇压。朝鲜京城电云：闻最可凭之说，团匪已延及义州。香港电云：李鸿章以廿一日乘安平船往上海，已由香港出发。李氏此行为直隶总督，受列国交涉之委任。

廿三日上海电云：廿一日李鸿章已由香港到上海，在巴布林龟路街刘学询之家停泊。又云上海列国领事多不曾见李鸿章，只有日本领事小田切与李鸿章会见商议云。又李鸿章以英国军舰护卫赴大沽。又云上海之各国领事禁止该国商人，不得于中国乱卖军器，必经已国领事允许方准。伦敦电云：中国兵乘俄国之不意，袭击黑龙江岸布拉威钱斯克之地，俄京圣彼得堡之人心甚鼓躁；且中国兵之袭击布拉威钱斯克之时，遂直溯黑龙江，阻俄国之汽船，于河之沿岸筑造炮台云。朝鲜京城电云：据朝鲜军部接得由咸镜道驻屯军队来电，朝鲜兵铳杀中国盗贼红匪二名（大抵是义和团之类）。此贼越国境至朝鲜甲山附近，大抵是来侦察者也。

廿四日厦门电云：数日来义和团匪传排外人之檄，以耸动厦门及鼓浪屿之人民。虽目下不见有暴动，然其他附近之外国人民，日抱危惧之念。故其地之海关道屡发示镇压。上海电云：据本日山东来电，谓袁世凯得接北京实信，言北京列国公使安全无恙，且有中国政府之保护云。香港电云：廿三日有运送船二只载印度兵七百人，向中国北部航驶。福州电云：前报说古田地方之骚扰，今确查知是虚传之语。现时福州地方，实中国中之最安全之地也。上海电云：有俄国人二百名，在辽东半岛之盖平地方被杀。现时俄国救助兵既由旅顺向该地进发。又云山东沂州府之教堂被劫掠。又济南府之地，外国流威斯博士与其仆从及华人耶稣教徒三名俱被杀戮。又云上海之卑路芝、法兰西、俄罗斯、日本四国领事会见李鸿章，其余诸国领事皆意存轻侮，故作不知李之到此者，欲以弄李氏云。伦敦电云：列国有各遣兵四万往中国之说。又云法国外务卿德路加塞氏回文，约列国协同禁止输军器于中国。又云在北京被杀之人，廿三日于先坡路寺院开追吊会。

廿五日上海电云：李鸿章本日由本港上岸，着军服，有二千兵护卫，入巴布林龟路街之官舍。有传谓其行李中藏有许多弹药，实未知确否。仁川电云：在本港之俄国水雷艇二只，今朝由本港出发往旅顺。

廿六日上海电云：据中国《加捷脱报》所接芝罘来电，依由牛庄到来之登州火船之报，有外国人使用之仆一人（中国人）十六日由北京逃来，口称本日北京之英国公使馆被破坏，外人之屋宇被焚烧，且多被屠杀者。又云本日接到芝罘来电，言山东巡抚袁世凯于昨午达电于芝罘道台曰，中国衙门大臣等廿一日于北京开阁议，决议以下之事：第一，今回之难皆起于华人与耶稣教徒之间，今宜速商量保护外人之方法。第二，严捕加害德公使及日本参

赞者。第三，由直隶总督之训令，调查外人财产之损害。又云据重庆之报，四川总督宣言与两江总督及湖广总督合同运动，其地之官吏保护外人甚恳切。

廿七日上海电云：上海英国代理领事倭连氏函问山东巡抚袁世凯曰，足下屡言北京各国公使无事，何以绝不见各公使有一文书来？袁世凯答以并余亦不知之。自后外人愈不信中国官吏之言矣。又云河南府来电，言其地之义和团匪戕杀进教者，当局官吏不敢镇压之。又云江苏省徐州之教堂廿二日为暴徒所烧。又云镇江府来书，谓山东、河南、江苏三省交界之地方，有暴徒将起乱。又云保定府私电，谓北京英国公使馆于初十日已被破坏。又云江苏省江宁府江浦县，于廿二日其地之教堂被焚烧，传教师逃去。又沙河府近之顿遮顿教堂及湖北之樊城教堂、湖南之衡州教堂亦俱被烧毁，传教师等尽逃去。福州电云：昨日漳州总兵曹率兵千二百人，由福州出发，经浙江衢州府，陆路北上（与团匪对抗）。芝罘电云：据本日由宁州来之中国人之报，其地及近傍村落之民众多练习义和团之邪法。又闻威海卫近傍之人多仇视外人者。又云日本军队于二十六日由山海关上陆，与中国兵大战。中国兵败绩，至其详细一切不明。伦敦电云：英国政府预算海军军费百二十六万九千三百（磅）[镑]，以便临时支用。又英国前派往阿非利加之印度兵，今已编成军队派往北京。别有战斗舰二只、巡洋舰四只，亦派往北京云。又云德皇致书欧美诸大国云，我德国并不求瓜分中国，亦非乘此济得其专益，所专求者惟平静北乱为主耳，务望各大国政府同心办妥此事，不可各怀私意，则事必成矣云云。又上海电云：十八日天津之战，英、日、美、德、俄、奥六国联兵计有七八千人，带炮四十五尊，分两路进兵。中国兵约有二万五千以至三万名，终为联军所败。华人死亡无算，尸横遍野。联军死亡约有七百七十五人云。

七月初二日(7月27日)

《中外日报》

[论说] 东南变局忧言

东南自立互保之约论者，以为七省疆臣能识大体保半壁，厥功伟矣！乃未几而勤王之师出矣，乃未几而北方宣战招团之矫诏来矣，又未几而调停求和之中旨下矣，又未几而李傅相奉诏北上矣。夫东南疆臣既已与诸邻邦立约，则东南疆臣已有代理政府之权。身为政府而更受北京贼政府之命，是谓失权。东南疆臣既已许诸邻邦以保护之利，则东南疆臣已有亲专国命之权。身秉国命而更听北方伪朝旨之牵掣，是谓失位。观望周章，略无布置，讨贼之名义未正，保境之经略毫无，是谓失机。北方匪徒以焚教启衅，而南方立约以后，湘汉浙东均有焚堂害教之举，其愚戆之地方官甚且遵照伪旨招团敌洋，其劣弱狡猾之地方官亦复以预先照会不能保护为卸责。一甘召衅，一甘背约，是谓失利。呜呼！有此四失而欲不贻忧大局而自速祸变也，其可得哉？夫揣东南诸疆臣之用心，讵不曰吾约已定，外人决无背约中变兵占东南之虑，目前之局苟安焉已矣。至于和战之成败，既由北方发端，则当由北方结局，于吾不与可也。岂知南北既不分治，则北方之命令不论真伪均可至

南，愚民何知戎心已伏？况更有无知满员愚瞽汉臣为之提倡乎？是欲归恶于北京，其计未必能成；而启乱于东南，其机则转至速，此变局之可忧者一也。北方兵匪交合，故乱不易弭。今东南之兵变，湖湘之间又所有闻，是东南乱萌业已发端，虺蘖不摧，滋蔓难图。北难一起，兵动环球，而瓜分之议尚为迟迟者，外人原恐南方亦变起不测也。设南方亦一日启祸，是徒速分割而已，吾恐疆臣既不能存国又无以保位，身贻大戮，贻误全局，此变局之可忧者二也。或者曰剿匪之后自可言和，否则北京一破亦必以平和了结，吾且俟之可也。夫剿匪之事，外兵已占大沽炮台矣，今且破袭天津矣。前师之举无一出于东南诸疆臣之调度者，而谓西兵东师可由东南之疆臣借用乎，抑谓各省勤王之师可由北上一二人节制乎？他人用力功将垂成，而我东南疆臣坐收其利，恐东西之统帅无此愚顽之人也。勤王之师剿匪敌洋，未定宗旨，谓新易统帅即可勒之以助东西各兵剿匪，未必如此之易也。即曰可用，安知西东之兵深信不疑允与协力也？此剿匪而后言和之计，只为欺弄邻邦之语而已。如其坐俟西师已破北京而后覩颜议款，则其人必然以市交对朝廷，而以买办采货视邦交。北方之戮，南方之奴，彼毫无动于中矣。至于愚民之愤外人之欺压，激变而起事，与夫权利坐失民穷财尽，枭桀之才乘之以肇难，更非意所及料、防所必周也。此变局之可忧者三也。怀依违坐失之谋，贻蕴酿启变之忧，此吾不能为东南诸疆臣宽，而杞人之言深望其幸而不中者也。于是乎作忧言。

七月初五日(7月30日)

《新闻报》

论和局办法

昨论当今时局，宜和不宜战矣。然而和与战之权，各国操十分之七而中国只操其三，吾必尽吾之当尽者，而后和局易于就绪也。吾之当尽者，在救出使臣与剿平团匪。不救使臣，不剿团匪，则虽有一二国君相愿致太平欲出而为仗义之言，究有何义之可仗？则虽各国君相愿致太平欲即和平了结，然因何而开战，因何而息战？是故不救出使臣、不剿平团匪而欲以空言搪塞，则断不能强各国以不战。山东袁中丞屡得京电，皆言除德使外，各国外使臣皆无恙。又言荣中堂从中极力周旋，又言兵匪已停攻使馆，董军守御河桥之北，洋兵守御河桥之南。又言已接济粮食，又已由总署俄股文章京往晤各使，又言拟请派孙军门万林护送出京。凡若此者，果足证使臣之无恙？然一则未能得使臣之密电，二则不能与各使商和平之策而分界国书。即此以观，使馆尚在围困之中，惟兵匪停攻而已，究未将各使救出。荣中堂、文章京与各使惟暗中往来而已，究未尝公然晋接，是亦敷衍办法而非切实办法也。不切实办理，则使臣无恙之说不足以取信于各国。虽美国等有首先出场转圜之意，其何辞以劝各国？故今日办法，一面将跋扈之臣、跋扈之将重办一二，则匪党即失奥援，剿捕当易为力；一面将各使救出，即与各使互商了结之法，即请各使径电其政府，不必自界国书。皇太后、皇上既肯下谦卑之国书，何不能勒令大小臣工救出使臣？皇太后、皇上与各

使亲议于内，而一二大国仗义执言于外，则和局未有不成者，此第一办法也。不幸而权臣悍将叛兵巨匪，其势尚盛，依然猖獗，势不能与各使在京会议，势不能保各使之永远无恙，则必赶紧将各使护送至津。一面先代各使传发密电，使各国君民恍然于各使之的确无恙，而知中国政府实无为难各使之意，然后和局可以开议，而别国可以转圜，然而其事必不能稳妥而速，此第二办法也。更不幸而不能护送各使出京，则代传密电之事断不能无，盖袁中丞以荣中堂之电告无恙转电各疆臣，各疆臣转告各领事。然而各国议论则颇以此事为可疑，假使无真实凭据，恐各国君臣反因之而疑各疆臣，故荣中堂不可不为各使代传密电。盖如此办法，于北事虽无甚大益，而东南各疆臣可与各国永保交际，未始非和局之一助，此第三办法也。总而言之，各国互相猜忌之心均不能免，惟既动公忿则猜忌暂化，犹之兄弟阋墙外御其侮。及至使臣救出，则公忿暂息，必能顾全大局，渐就和平，故曰中国宜先尽当局之办法也。中国办法既尽，而后一二大国可以仗义执言和平了结也。

《申报》

与客论英国水师提督南来事

西摩氏，英之水师提督也。津沽之役，方统率水陆师旅，奋其威武，大创匪人。乃日前忽航海而南，小驻沪上。于是向之谣言甫息者，至此又惊疑不定，弓蛇市虎，互起猜嫌。执笔者曰：噫！西摩氏之来，特欲一窥南中互相保护之局耳，恶用是惊疑为？客曰：否，不然。我观西人之待我华终未尝怀好意，彼西摩氏位高责重，衔命而出，总统师干，日夕连筹，犹虞不给，一旦轻裘缓带游览申江，岂惟是模山范水云尔哉？殆别有深意存乎其中，恐不免欲于南方恣其鹰瞵鹗视耳。或曰是亦未必。西人尝宣言于众，谓此次事由北方而起，仍当于北方了之。况上海为西人立足之区，经营五十余年，货财不下千百兆。一旦用兵于此，燎原势盛，必致玉石俱焚。人虽至愚，安肯贸焉从事？矧如西摩氏之夙负重望、智勇兼全者乎？我意今之来此，实只纵览山川形势，考其扼塞之处，并默观华兵之布置若何，而未必心中有所叵测也。执笔者曰：是皆不然。今者驻京各国使臣被困久矣，其翘盼西兵援手，几若大旱之望云霓矣。西摩氏既亲统六师，岂不思及早督队入京，俾各使得离虎口？特目下大军未集，调遣尚恐不敷万一。津沽之兵直指都下，而南方疆吏顿背互保之约，突然而起，戕害西人。斯时欲分兵杀之，而鞭长既苦不及。欲恝然置之，而顾此又虞失彼。南方各通商口岸，凡官于斯、贾于斯、工作于斯者，身家性命势必糜烂不堪。故于联军未入京之前，伺隙一行，微窥华官之举动，庶日后得专心致志入京救出使臣乎。客曰：子何以知之深而言之决若此？曰：仆盖观其所带兵舰而知之。今者，中国师船方麇聚沿江各埠，使西摩氏而果欲于南方发难，则区区兵舰二号，何足以抵我十余号之多？且所订保护章程，华官甫发其端，而西官即首为之肯，使竟前言尽食，则是堂堂诸大国，胥不足取信于人。西摩氏虽武员，断不肯贸然为此。然则只身来此足矣，何必带二兵舰？曰是耀武也，是虞华官之或背前盟而示之以兵力也。回忆当日所订章程，虽创始于张、刘二制军，而两广浙闽亦皆照此办理。今李傅相已由两广交卸来沪，行将应诏入都。浙闽许筠庵制军素以守旧闻与西人，未必情投意洽。所恃者惟张、刘二帅。设使前约顿废，则西人之在南省者跼蹐不安。而各使虽望救甚殷，西摩氏即不能放心前进，故先耀我威武，俾南省诸疆吏见西人之兵舰

若何坚利，军械若何精良，而又于游览之余潜窥其营垒炮台、岩疆要塞，将中国防务一一了然于胸中。此足见西人之别具深心，而非卤莽仓卒者所可几及也。客曰：然则西摩氏既抵沪，适傅相亦秉节而来，或者可乘此机会议和，免致日久兵连祸结乎！曰：是则不能。议和之事使臣任之，而其旨必受之政府。西摩氏，武员也，其责任惟在于平拳匪、护使臣，安能越俎而筹及和议？惟俄、美、日本既已愿作调人，但使西摩氏他日入京中途不复有乱兵梗阻，而各使之在京供职者皆安然无恙，实未尝殒命于戈矛炮火之中，则以玉帛易干戈当亦易于为力，而中国大势当不致离析分崩。特如何而可以行成？此时尚难于逆亿耳。客曰：子言实有见地，敬闻命矣。盍将今日一席话笔之报牍，免使人心因之惊疑乎？执笔者曰：诺。遂书此，以付手民。

七月初六日(7月31日)

《申报》

劝各国停战说

义和拳匪起于山左，延及顺直，以仇教为名，毁铁道，焚教堂，杀教士，横行于京津之间。致动各国公愤，兵舰云集于津沽，占我炮台，阻我海口。现更攻入津郡，京城危若累卵。似此中外交哄，实为古今未有之变局。自西人言之，现虽调兵遣将，不遗余力，而实无瓜分中国土地之意、残害中国人民之心。惟教堂被毁，教士被戕，并害及日本书记、德国使臣，故恨拳匪刺骨，务欲剿除净尽，以泄其恨。且非但为剿匪泄恨起见，现在各国使臣尚坐困京城，雁杳鱼沉，存亡未卜。朝廷虽屡下保护之谕，疆吏虽时通无恙之电，而其疑终莫能释。倘使臣一日不能出险，则各国之心一日不安。况拳匪满布京城，中国即力任保护，而日久困守，难保无意外之虞。其欲力攻京城也，亦出于万不得已，非有意与中国为难也。窃窥各国之心，非但欲力攻京城，且深咎中国之兵阻其去路。一若我兵若不相阻，则奚难直入京城，俾拳匪之患立平，使臣之围立解，庶北方之事易了，何至兵连祸结，彼此伤残？窃以为其计非不甚善，然要未尝谅及中国之苦心也。夫拳匪不急剿灭，以至祸及旅人，中国诚难辞其咎。然现在朝廷谆谆以保护各国使臣、剿办拳匪为宗旨，可见断不欲开罪于各国。其阻各国进兵之路者，实处于情势之不得不然。何以言之？外兵一人，必至玉石不分。即各国别无他意，而投鼠或不能忌器，宫寝必为之震惊，人民必遭其蹂躏。故中国不能不竭力阻止，非与各国有意为难。然彼此相持，兵祸何时能解？拳匪何时能灭？北方人民何时始得安静？东南商务何时方有转机？曰是非劝各国先停战不可。战务一停，诸事自易办理。中国政府初虽聩聩，今亦当已如梦之醒，其不能尽力剿匪者，大抵兵力以分而益疲。若战务一停，自不难撤御敌之兵，一意剿匪。匪虽满布，当不俟外人越俎而立见歼除。此战事之宜停者一也。原各国兵士之急欲入京者，意在救护使臣出险耳。不知使臣现虽被困，尚有中国朝廷保护。苟一旦外兵入内，兵匪混乱之际，中国将自保之不暇，更乌能顾及使臣？纷纷扰扰之中，或反为匪人所毙。是欲救之，适以害之，窃为各国所不取。

不若订期停战，俾中国自行痛剿匪灭，则使臣自能出险。此战事之宜停者二也。传教经商为各国所并重。北事未定，牵动南方，不但闹教之事层见叠出，即沪上商务之坏，亦几致不可收拾。必俟战端既止，商货始可流通。商货流通，则人心自静。人心一静，而各处匪徒闹教之事自然瓦解冰消。此战事之宜停者三也。有此三者，深愿各国释目前之深恨，顾将来之大局，易于戈为玉帛，彼此均裨益多多矣。诚何必劳师糜饷为哉？

七月初七日(8月1日)

《申报》

论俄国狡谋

环球各国，星罗棋布。若英、若法、若德、若俄、若美，皆所称著名之强国也，而尤以俄为有大志。盖其国势跨有欧、亚、非三洲之地，疆宇辽廓，人民众多。而其君自大彼得以来，又皆好大喜功，时思拓土开疆，混一区宇。所惜黑海之利为英所得，俄不能得志于欧西，乃转而图东亚。其租我旅顺、大连湾为屯兵停舰之所，而亟亟焉经营西伯利亚之铁路，岂无故而然哉？此其阴谋狡计将图逞志于中国，固已不待智者而知矣。今者北省拳匪肇事，仇杀洋人。政府诸臣如醉如梦，方欲引拳匪以自卫，以致各国纷纷调兵入寇，酿成中外交哄之变端。大沽之海口沦亡，津郡之岩疆连陷，京师岌岌，倍极阽危。英、法、德、美诸国虽皆言并无瓜分中国之心，而窃窥俄人之隐谋，则恐未必与各国之心相合。观于当兵衅未开之先，各国以乱匪不靖、公使可危，会议调兵入京，藉资保护。而俄员独以为事尚可缓，初不料其意怀叵测，已先发电至国遣兵来华。于是各国皆知俄之用心不良，纷调雄师，驰至津沽助战。德皇亦知其意，故虽以使臣被害，公愤宜伸，而曾移书欧美诸邦，谓“中国此次乱端，我德断无乘势瓜分之意，惟冀北省早日平静，庶惬中怀。想贵邦各有同心，尚其协力勗劝，勿存私见”。盖德皇虽不欲以瓜分之事创之于德，而反以渔利让之于俄也。俄人亦知各国用意与己相违，而又牵掣多端，碍于各国，他日即欲肆其囊括席卷之志，知各国必不肯从，因遂别出一途，以冀偿其大欲。日前西报纪珲春来电，谓黑龙江将军寿军帅山某日领兵至俄国属地开炮猛击，俄人亦调兵过江轰击附近之华城。华兵爱在江边排炮多尊，不准俄舰在江中行驶。俄廷闻信甚为愤慨。电音所述止此，至两国因何启衅，则尚未知其详。余谓此乃俄国之狡谋，其衅断非中国之所启。盖现在北省兵端方亟，各国联军方环以相攻。时局艰危，神京震恐。寿军帅即极不知利害，何至无端发炮与俄人再启兵端？惟俄人知北省拳匪之事，既为各国所牵制，不能逞其长驱远驭之雄心，因遂于黑龙江别启衅端，为将来独自称兵地步。窥其意以为如此设计，则为中俄两国之衅，他国不能置喙，日后可以惟所欲为。或割取地方，或要求商利，俄可于中国自为操纵，不必步各国之后尘。此正俄国之毒计，而为中国无穷之大患也。况即京津兵事观之，俄国亦较他国为勇往。其先后所调之兵已络绎而至，不啻雾沛云屯。陆军之在鸭绿江及蒙古、西伯利亚、旅顺口等处者约共七万名，加以义和团四万名，合之已得一十一万名。近复由海参崴派出可杀克

兵八千名，于华历六月初八日遵陆驰赴天津，既而又派可杀克兵四千名驰抵津沽。至水师战舰之在中国者，则有十八艘，茶火军容尤较他国为盛。是非有求逞于中国之心，曷为而有此举动耶？我是以知俄之志量非小，各国虽皆无瓜分中国之意，而俄则未必无剪取中国土地之心也。俄真可畏乎哉！

《汇报》

民教相仇辨

夫言，心之声也。择言不当，心之偏也。言不当而无碍于事，亦听之而已，何必辨？言不当而大害我名，或局外习焉不察而受之者，痛痒相关，乌可以不辨？溯自近岁以来，闹教之案层出不穷，动辄曰民教相仇，或则曰民教寻仇，或则曰民教不和。其见于报章者斯言，其见于官示者斯言，其见于上谕者亦斯言。万口同声，一喙莫置，原其心无他，与其责民重而民不悦，孰若抑教民而教亦受也？是以曲直不分，慢作平量之语。然而静心论事，教民果相仇否耶？相者共也，胥也。尔击我，我亦击尔，谓之相击。不然一人强暴，一人受屈，不可以相仇目之。乃者平民仇教往往而然，教内仇民未之前闻。如应万得闹教于浙，教民被害者数百家。余栋臣闹教于蜀，教民流离者万余人。他若贵溪之案、巴东之祸，皆民害教而教则未尝害民。姑不论往年之事，而只以近者言之：拳匪以义愤为名，随在与教堂为难，杀教士已十余人，毁教堂已数百座，毙教民不知实数，谅亦不下二千。河间教堂收养遗孤二百余口，济南教堂亦收养一百余口。或匪类自往劫掠，或地方官押令出堂，任人抢劫，甚有呱呱婴子投入火中，忍视其焚身之惨。呜呼！襁褓孩童无知无识，果何害于拳匪而待之乃尔也？自近代以来，文教日兴，虽蛮野黑人亦不复出此，而堂堂中国残忍至斯，其为天下笑不亦宜哉？然历观各埠报章，中西家函，有谓教民亦聚众数千，与拳匪对垒者乎？有谓教民焚平民之屋，抢平民之财，以泄其积恨者乎？方闹事之初，北直某村教民突被匪人围困，势将就戮，噍类无遗。于是投砖掷瓦，短戈迎敌，出死力以御祸，毙匪三十余人，此困兽之斗，出于不得已，非教民之寻仇也。又闻之盛京匪类方炽，主教求助于军宪。军宪奉有伪诏不敢轻违，答以我力不能护，惟愿给与军火，尔教民自行护卫。主教听之，唤集教众为背城之战。卒以官军麇至，众寡势殊，主教与五教士、二西女死焉，教民被杀者七百余人。此军宪明准拒匪，非教民之寻仇也。溯自明季迄今，天主教传行日广，备历艰难，然恒自含忍，何尝一谋不轨？故每闻某教揭竿，某教倡乱，而天主教无是事也。则所谓相仇者果何在乎？或曰教民果能安分，何官民上下皆深恶而痛嫉之？予曰：官民之恶之者固多，而不恶者亦复甚夥。其所以恶之也，或以守旧之心胜移域之见，固以为我行我教，何必从外洋之教？于是，凡为信人皆其眼中钉矣。或以倨傲存胸，聪明自用，扬言我族不得入教，我乡不得入教。苟有人者辄行阻挠，教士鸣之官，官或斥之，而与教民成切齿仇矣。或又派教民出资赛会，以所欲不遂而辄敢仇教。或又以不逞之徒混入教中，肆行欺诈，教士不察，反为袒护，此乃偶有之事，百无一二，而其受屈于平民，盖不可擢发数。然平民已同抱不平，必欲起而仇教矣。由是观之，民固仇教，而教则断不仇民。苟公道在人心，我愿立言者尚其审之。

七月初九日(8月3日)

《新闻报》

安居上海说

万事不外乎情、理、势三者，一言之来，不察其合于情、理、势与否，以定其事之虚实，遽尔惊惶失措，轻举妄动，不亦可悯之至哉？回忆上月初旬上海地方即已谣言蜂起，竟谓难过六月十五日。于是无知之徒纷纷迁避，恐后争先。其皇皇之状，一若略迟一刻真有性命之忧者，以致上船上岸有拥挤落水之事，见财起意有中途被劫之事。及至十五日无恙，造谣者逐节约期而逐期无恙。今日已七月初九日，安居上海者至今无恙，当更知谣言之不足信矣！何以近来复有轻信谣言，纷纷迁避者？岂犹信只有某日并无某日之说耶？近日谣言约有四端：一谣传湖广总督张香帅不能再守照约保护之原议；二谣传英水师提督西摩乘轮南下意将有事于长江；三谣传长江商轮停班；四谣传各国兵舰之停泊浦江，将有事于上海。不知某西报所载武昌汉口种种谣言，业经张香帅电咨领事转嘱更正，可证香帅不能保护之说尽属子虚。至于西摩乃英国水师提督，洋兵第一次由津入京由西摩统率，其后夺取大沽炮台，夺取津城，皆非西摩主持其事，实非现在各国联军之领袖提督，其乘轮南下亦何足惊骇？而且水师提督本有保护商民之责，华官与各领事言定自行保护，该提督未见实在情形，至长江中巡视一周，亦属恒有之事，何足为奇？初四日已谣传长江商轮初五日停班，然自初五日以来仍日有商轮往来，长江停班之说更属荒谬不经。至于各国兵船由外洋赴津必于中途添装煤斤粮食，刻下大队来华，在浦江中装足煤斤粮食再行赴津，亦属常事，更无足怪。总之，此等谣言不足凭信如此。然而人之信之者，终虑各国之有事于长江，即当有事于上海也。今请以情、理、势三者，必上海之无事。当大沽被占之后，轰击天津租界之时，外人之旅居各处者，咸惴惴然有戒心。而长江各督抚深明公理，既不乘人之猝不及防，遽与为难，更能力任保护东南各通商口岸至今安堵。故各国外部均有感谢之言，此以情而论，可以必上海之无事也。各国联军之宗旨，首在于剿捕团匪，救出使臣，早经领袖提督明白宣示。今东南各省既无团匪，又无使臣，岂能毫无缘故遽加扰害？此以理而论，可以必上海之无事也。团匪布满直隶，各国仅据津沽，联军定期进京，若非节节屯扎重兵，即有拦腰截断，前后相失之弊，故各国调来之兵现方专力北方，岂肯有事于东南以自分其兵力？此以势而论，可以必上海之无事也。从前中法一役、中日一役，以一国之意见尚能顾全各国产业不动上海，今各国联军由各国互商办理，而谓各国反不自顾其产业乎？一有战事，则各国产业之在上海者难保，此亦以势而论，可以必上海之无事也。总之，上海地方多一日之安居，则中西官之布置多一分妥帖，中西官之交谊多一分敦睦，中西人之信心即当多一分坚固。故上海可以日见其安，然则轻举妄动者，岂非昧于情、理、势哉？

docsriver文川网
入驻商家 古籍书城

在文川网搜索古籍书城 获取更多电子书

七月初十日(8月4日)

《申报》

保教策

义和拳匪以仇教为名，起事山左，延及顺直，焚教堂，杀教士，毁铁道，攻租界，戮及教民，不顾同种。西人调兵集舰，占我炮台，阻我海口，陷我郡城，中外交哄，京城危迫。自来闹教之案，未有如是之大。中外交涉之事，未有如是之难办者也。顾北事虽极万分危急，南中各省则经两江总督刘岘帅、两湖总督张香帅会商各疆吏，与西人订定保护章程，东南半壁不啻固若金汤。凡我民人自可安居乐业，乃不意各处闹教之案仍层见叠出，几如铜山西崩，洛钟东应。四川则闻成都府大主教堂有被旗民拆毁之事。湖南则湘潭县福音堂有被乡人焚毁并延烧民房数家之事。山西则太原府等处亦有土匪与各教堂为难，传闻教士有被害之事。江西则景德镇教堂于六月十五日之夜被匪徒焚毁。安徽则南陵、铜陵等处有会匪揭竿倡乱，亦以闹教为名。宿松县亦有乡民聚众七八百人与教民为难。浙江则衢州府属之江山、绍兴府属之诸暨县，均因民教龃龉，几致酿成大祸。诸暨之事刻虽办理已妥，而江山教案尚未能平，且匪人窜至西安县、龙游县、常山县，致有西安被围、龙游戒严、常山失守之说。而近日沪上又接陕西西安府来电，谓此间有教士五十名惨被匪人戕害，教民被害者亦实繁有徒云云。以上各案，有因地方官办理不善，以致酿成事端者。有因事起仓卒，地方官不及派兵弹压，致教士、教民受害者。窃意西人来华传教，信与不信本听之华人，而匪人必欲与之为难，其果何所憾于西人(与)[欤]？无非借端起事，希图抢劫财帛耳。揣匪人之心，若平空抢劫必犯众怒，故必以闹教为名，庶乡愚易受其惑，以为若辈与西人为难耳，与华人无与也，于是得逞其凶横。迨地方官得悉，或其势已成，或其祸已肇，即能早平，而地方已为蹂躏。是故现欲为安静地方计，当以保教为要图。而保教之方，亦宜变通办理。盖当无事之时，各处即有匪人，尚不敢轻于肇祸，地方官亦易于防范，可获保全。值此多事之秋，匪类皆蠢蠢欲动，而西人传教者几遍于各省、各郡、各邑、各乡，无论疆吏鞭长莫及，即地方官亦耳目难周。如欲各处保护，亦安得如许兵力？苟无兵力，则空言保护，亦何济于事哉？鄙意各处地方官宜照会各教士，凡在各乡各镇者一律暂迁至城，或竟迁至省会。盖省中兵力较厚，防范易周，疆吏及地方官皆易为力，各教士可免受惊，且各处匪类无所藉口，地方亦可免遭殃，非一举而三善备乎？或虑各教士设立教堂亦非易易，安土重迁，未必肯允，曰是在各地方官陈之以利害，婉转劝导，则各教士亦何致拘执一见，自蹈危机乎？况教士非土著可比，奚必恋恋于斯？一俟北事敉平，民心安静，即可依旧迁回，照常传教。各教士又何恶而不允乎？吾故窃以为不欲保教则已，如欲保教，舍此别无良法也。有地方之责者，其亦不河汉斯言否？

七月十一日(8月5日)

《新闻报》

大臣被戮感言

呜呼！中国政府何其竟无人也。今有许侍郎、袁京卿之死于力争，则中国政府亦不得谓竟无人也。团匪本么(魔)[麼]小丑，左道惑人，既不能剿，又不能抚，遂使匪党目中不复有人，而敢于蹂躏京畿，震惊辇毂。端邸本远支郡王，藉孺子之贵，侵持政柄。彼见一切奸谋无人摘覆，而后敢于挟制两宫，号令天下。董军昔平甘乱，本有战功，及入京都，遂尔跋扈，其目中且无武卫统帅，安有他人？故敢于戕杀外官，劫掠相府。各国与中国办理交涉，早欺总署之无人。自团匪肇祸，既无人剿灭匪徒以自谢于邻国，又无人保守疆土以拱卫乎神京。坐使各国联军长驱而入，宫寝之外将为血战之场，而况太后困于群小，匡救者何人？小民堕于涂炭，拯救者何人？所闻者，某员携眷出京，某员携资出京而已。故环球人士现所(属)[瞩]目者，曰团匪，曰端邸，曰董军，曰各国联军，其他无人也。乃不谓昨报载称：许侍郎景澄、袁京卿昶以痛陈利害骈首市朝，顿使人人心目中为之一醒，盖今而后不得谓中国竟无人矣。故事军机堂官若干人、总署堂官若干人，然能议论是非、措置政事者，首座一二人而已。其余皆唯诺成风，鹿马不辩。大局之败坏，虽败坏于一二人之手，然而火及眉睫，而安常蹈故，始终缄口者，果亦不足以谢天下也。今许侍郎、袁京卿痛社稷之将亡，悲宫闱之难保，于会议之时不复守唯诺之风，痛陈利害，冀挽危亡，终以舍生取义，骈死市朝，岂不胜于缄口结舌坐待死亡者哉？彼缄口结舌者，岂不自以为明哲保身？然时至今日而犹缄口结舌，既非明哲，尤不能保身。一国之师不能敌各国，明哲者所宜知；乌合之匪不能敌联军，明哲者所宜知；洋兵到京之后玉石不分，亦明哲者所宜知。知之而不言，与不明不哲同。盖今日之事，言果不能保身，不言亦不能保身。与其不言而糊糊涂涂以死，不若言之而明明白白以死；与其不言而同归于死，不若言之而或可以不死，并可以救人之死。彼之所以死许、袁二大臣者，岂非欲以儆其余？然使其余大小臣工，凡能洞明利害者，不畏斧钺，继起直言，前者仆、后者继，死而无悔，则太后虽困于群小，然一念乎人皆贪生恶死，而茲能奋不顾身以陈利害，必能怦然动心，翻然变计。盖向以不畏斧钺为章奏之空言，而今则二人已死，再能进言者真是死谏。假使大局幸而挽回，一身可以不死，并可以救人之不死。不幸而不济，与其死于玉石俱焚之日，不若死于力争。然则许、袁二公已开其先，何不继其后哉？呜呼！许、袁二公悲宫闱之难保，痛社稷之将危，惜生灵之涂炭，遂不惜以血肉之躯体为中国之牺牲。使有继起者竟挽危局，果当以二公为首功。即无继起者，而许、袁二公果可以自谢于天下，非徒死也。然使二公既死，其余臣工益复缄口结舌，竟无继起之人，则中国仍不得谓有人也。

《申报》

书报纪英相宣言后

英国相臣西厘氏尝在教会中宣言曰：“自今以后，深愿尔等各牧师遇事必三思而行，断不可卤莽从事。第一宣教于东方一带者，每与诸色人等交涉，纵不顾一己身命，亦应顾及本国人身命。如有摇动大局之处，更宜仔细思量。”本馆会录其语于七月初四日报中，执笔人读之，乃书其后曰：观英相西厘氏之语，其殆微有不满于教者乎！夫西人之人中国也，始请传教，后索通商，是西人初入中国之意，固首重传教也。自明万历年间，意大利国人利玛窦航海东来，入京进献方物。天子嘉之，公卿重之。利玛窦于是撰《天主实义》诸书，述天主教之说，士大夫争尚之，是为天主教入中国之始。后其徒来者日众，如艾儒略、汤若望、南怀仁诸人，类皆彼教中知名之士。善天文家言，为中国参校历法之错舛，由是名望日益重，而信从之者亦日益多。沿及至今，中国广开通商口岸，西人之以懋迁来华者趾错于道，而传教之士亦遂连镳接轸而来，到处建立教堂，劝华人崇奉其教。通都大邑以及繁盛乡镇，几无一地不有教堂，亦无一处不有教士之踪迹。华人之服习其说者，亦日繁有徒，其教可谓盛矣。顾教民既多，其中岂无一二不肖、不能恪守教规者？或倚势凌人，与平民互相龃龉。教士偶不深察，致为所蒙，稍加庇护，于是平民有嫉视教民之意，而教民亦愈思藉教以压平民。民教不和，大都因此。各处群不逞之徒益复造作种种不经之语，煽惑愚民，或谓迷拐幼孩，或谓剖心挖眼。愚民无识，信而不疑。由是仇教之心益深，而各处闹教之案亦几乎无年蔑有。夫彼教中迷拐幼孩、剖心挖眼之语，确由匪党之妄造，不过欲借端生事，以肆其焚掠之谋。然考之名儒顾炎武所著《[天下]郡国利病书》，已有烹食小儿之说。可知是说之流传已久，而无怪愚民笃信之深。但当时中外悬隔，未能深悉其情，故漫以诞妄之言，笔之简籍。今则西人之传教于中国者已及三百年，相处既久，知之甚深，稍明事理者皆知旧说之讹传，并无所谓迷拐幼孩、剖心挖眼之事。彼教宗旨无非劝人为善，一意仁慈，虽不能同我周孔程朱之教，然要未有妖异残虐，足动人以疑者。只以匪徒簧鼓妄思，借故为非，而平民或受教民之欺，积愤日深，以致一发而不可遏。是民教不和之案，虽半由平民之轻信蜚语妄启衅端，然半亦由教民欺压平民所致，此吾不能为彼教讳。即使彼教中人反己思之，当亦不能自辞其咎也。英相西厘氏殆亦见及于此，故宣言教会戒各牧师于自今以后，遇事三思，切勿卤莽。盖深知中外失和之事，大都因民教不安而开；而民教之不安又不尽平民非而教民是，迨至衅端一启，弃好寻仇。西人虽国势雄强，足以抵御中国，然生灵涂炭，商务萧条，即使中国让之以边疆，偿之以巨款，而西人得不偿失，亦未必果获利益也。西厘氏之言自有微旨，固不难寻绎而得之。吾愿自后各教士之传教于东方者，深体西厘氏之意，毋有所纵，毋有所庇，则民教可以相安，而中外亦庶几同享升平之福乎！

《清议报》第五十三册

义和团滋事六志

六月廿八日上海电云：陕西省西安府有匪徒暴动。又云德意志似有与俄国合同运动

之意。又云昨日法国领事往访李鸿章，问曰：“阁下果有制压天津拳匪之成算乎？”李答曰：“有。”又问：“阁下能出北京列国公使于重围乎？”李答曰：“然，或可保护其出来无恙。”又问：“能将端亲王与刚毅交出以谢外国乎？”李答：“以力微，非余所能。”（按今回之事，实荣禄、端王、刚毅等所共主使也，而荣禄为其尤。今外国人只知端、刚之罪，而不知荣禄之罪，吁荣贼可谓狡矣）伦敦电云：天津英国领事于礼拜一日（即廿五日）接得在北京英国公使之书，内言求援甚切。谓目下粮食只可再支持两礼拜，护卫军又寡少，不敌官匪兵之众，恐到底不敌，且现今既已战死四十四人，负伤者倍之云。又云英国下议院再预算追加军费千一百五十万（磅）[镑]。又云上海徐家汇地方，有传教师二人及西妇被杀害。

廿九日伦敦电云：《泰晤士报》接得俄京圣彼得堡特电，谓俄国陆军大臣其拉帕地坚氏欲自率兵向中国，且兼欲指麾联合全军云。又云美国大统领麦坚尼复答中国皇帝之电曰：“清国政府能保全各国外交官无事，与各国联合军协同，力谋回复，则我美国自当于清国与各国之间，务求排解纷乱，使享平和之结局，不敢辞劳也。”

七月初一日上海电云：李鸿章之幕友传谓各国公使及其家族，目下有武官孙万林保护其出北京，现在途上，不日将到天津云。虽然，上海之外国人多有不信此说者。又云湖广总督张之洞忧匪徒之一旦暴发，故限于十日之内，求外国人退出其所辖之地云。又云英国恐扬子江不稳，故特加严防。英国东洋舰队司令长官赊摩中将以所乘之兵舰名先昭伦，直南下至吴淞，即转乘别船来上海。上海英国总领事代理窝连氏往访之，商议防备扬子江一带之事。又目下碇泊于吴淞之英国军舰四艘及碇泊上海之英国军舰六艘，皆以防备扬子江也。

初二日杭州电云：浙江省衡州之常山及开化诸县为暴徒所占据，其知县已逃去，并派官兵七百五十人以谋恢复。上海电云：“前月廿八日有一伪谕，其意云今杀害各国公使不便，而送还之亦不便，只可留之以为强制要挟之用。并严责李鸿章不速进京。因裕禄不知兵，故使李鸿章任直隶总督”云云。又云李鸿章读以上之上谕，甚不悦，有归卧合肥之意云。又云义和团于前月十二日在直隶保定府东关近傍，袭击外国传教师及华人基督教徒。外国医师一名及华人基督教徒约二千名俱被杀害。又数日前于山西省平阳地方，有基督教徒之家屋及人口多被焚劫杀害。又云据某信，谓李秉衡进北京，途次经直隶省景州，命其部下之兵士杀害法国教士一人、华人教徒数千人。据此报思之，若李秉衡一至北京之后，将必更加一层祸乱矣。伦敦电云：英国陆军次官温深氏在下议院演说军费预算事，对中国之兵费须支出三百万（磅）[镑]。

初三日上海电云：直隶省通州、保定、广平各地之传教师、技师、医师与诸外国人及华人之信外教者，于去月廿三日被杀害。伦敦电云：德皇送其运船三艘出发之时，临别赠语曰，务宜奋力战斗，使彼豚尾汉震懾伏，虽将来一千年之内，犹不敢横目以视德国人云云。

初四日伦敦电云：意大利政府禁输出兵器于中国。又云英国传教师布路其斯被杀害以来，即以其公书在议院提议，英国之有权力者，多主遣兵之事托诸日本，劝告日本派军往中国，而自担其财政之责任。

初五日上海电云：去月廿九日，中俄之兵战于熊岳城，俄军遂失其城市。本月初一日，有俄兵二百由牛家屯来，于牛庄南门外袭击中国兵，两军皆有死伤，俄兵再退回牛家屯。

又是日有华兵八千人，于大石桥攻击四千俄兵，互战终日，胜负不决。

初六日上海电云：四川省崇庆及温山等处，有暴徒将基督教徒百名杀害，破坏教堂。官兵尽力扶助教徒。又四川省壁山有法国药师一名，亦被暴徒袭击，幸得救助。又云南省蒙自有为法国军队所占据之说。伦敦电云：据前月廿五日驻北京英公使麦格之报云，自二十日以来休战，而防护兵之战死者六十二名。总员之一半在病院调治，妇人孺子全在公使馆云。

初七日上海电云：据由总理衙门达袁世凯之电，英国及他国诸公使皆无事。又英公使麦格之电云，李秉衡于去月二十六日抵北京，二十七日谒见云（此廿六、廿七日不能辨其中历抑是西历，至其谒见何事不明。原文只书 Audience Throne，译言“朝见宝座”之意）。又云现有一二国与贼政府（指荣、刚、端等辈）商议，欲救外人在北京之生存者云。又云两江总督刘坤一答某领事之问曰：“如列国联合军进北京，予亦遣军队及弹药共同进京云。”又云据某华人之信，公使馆（大抵指英国）既被破坏，外国守备兵战死者过半，目下北京之拳匪约有四五万人。又云俄兵占据北仓（距天津约九里），二千华兵溃走。又云中国官兵于北京之近傍，烧毁基督教徒之市邑及外国教士五名、教徒一万。又云天津各国联合军皆切望进军，唯英兵不欲。又云华兵袭击英公使馆时，英国海军大佐米翳路氏及美国海兵与之战，华兵被击退，及被获小铳弹丸数百。是战披布氏负伤，医生立别氏负重伤。又云联合军决于明日初进军。又云据初二日牛庄来报云，联合军在大石桥，东北两面皆被攻击。虽得战退东面，而北面仍连续战斗不息。拳匪又时时加添，今其租界地将有被攻击之恐。又盖平州之车站已烧毁，其地之华人基督教徒被杀害，及俄兵五千被一万六千华兵所围。又云据某英人之报，在北京之外国妇人小儿等，今遁在宫城内云。又据某华人之报云，李秉衡掌握由扬子江发遣四营兵之司令权。又云徐摩中将于南昌与刘坤一会谈，又于武昌与张之洞会谈，所谈何事，尚未详知。

七月十二日(8月6日)

《新闻报》

大臣被戮愤言

吾于许侍郎、袁京卿之被戮，恍然大悟两宫之不能自主矣。夫天理、国法、人情三者为立国之具，今二公之死，朝廷盖无天理、无国法、无人情。自团匪起衅，朝廷颁诏有治命、乱命之别。治命者，两宫之命；乱命者，端邸、刚相之命也。疆臣之所以遵治命、抗乱命者，盖以两宫深仁厚泽涵濡人心，又能英明决断，不为群小蒙蔽，故慨然陈说东南大局，而皆以剿灭团匪、和睦邦交为宗旨，以冀社稷之不即灭亡。内廷如庆邸、荣相、许侍郎、袁京卿诸人，皆明白此等事理者也。东南各臣共约保守疆土，故西兵纷纷北上而无意南来，即北上亦申明为剿匪而施，并非有亡人家国之举。西报固屡言之，虽不可信，亦未始不可姑听也。当斯时也，中国一举一动要当慎益加慎，明益加明。大局当设法以保全，外人当多方以笼络，

其一切无天理、无国法、无人情之事，未可偶出自朝廷也。乃不意忽有许、袁二公被戮之惨也。夫一国有主，臣所以忠于主者，生受主之恩，死即与主之难，生死原无足惜。然两宫固所谓深仁厚泽涵濡人心，又所谓英明决断不受群小之蒙蔽者，方以治命遵之，胡为亦出以乱命耶？许、袁二公痛陈利害图存社稷而死之，端、刚诸逆助匪倡乱，倾败社稷，而不敢稍抑其权。两宫之不能行其治命，是明明不能自主矣。谓二公为端、刚所死，则两宫应生之，谓二公为李帅所死，则两宫更应生之。如是则两宫能自主。今诸臣欲死之，两宫即死之。以诸臣意中所欲死之人，何止二公？假使移其爱欲生、恶欲死之心，日日请之两宫，而两宫无如何一一从其欲，则凡与东南之约者皆岌岌可危又意中事也。如是则朝廷可谓无主也，臣之忠于事者以朝廷有主，今两宫不敢稍违端、刚之意，残害忠良而惟逆谋之是从。是明明两宫非主，而端、刚为主。端、刚为主而臣尚忠于事、忠于两宫乎，忠于端、刚乎？忠于两宫，两宫死之；忠于端、刚，端、刚亦洋兵到京所难免报复之人；端、刚受洋兵报复亦必死，然则为之臣者盖亦莫所适从矣。呜呼！向且以两宫有治命，而东南诸臣有主可事。食主之禄，受主之恩，即当忠主之事。今忽治命不能挟制乱命而杀戮大臣，是则端、刚之中国，非两宫之中国也。两宫既不能保我臣民而又驱我为端、刚之臣民，大臣且可无辜杀戮，何况苍生赤子之性命，又安能冀其保爱怜惜乎？一国存亡之际，惟视恩怨为何，如今当危急之秋，最患人心漓散。若令大小臣工人人灰心寒胆，则凡忠鲠成性者相率辞官，凡卑鄙无耻者相率唯诺，一任端邸跋扈数十日，专擅数十日。迨西兵大队到京，未必不以杀戮之事转而报之端、刚也。残害忠良，是桀、纣亡国之为，天下闻之伤心曷已？吾益悲两宫之治命不能制端、刚之乱命，其不能自主，凡在臣民盖已莫知适从矣！

《申报》

续保教策

前日，本馆曾撰保教策弁之报首，愚者一得，恐于事机或有未宜，乃昨经友人录示，某观察上南中各督抚条陈，窃喜所见大略相同，而其藻密虑周，多有发本馆所未发者，不禁为之欢欣鼓舞，而深望坐而言者之即可起而行焉。观察之言曰：为保约防患，谨陈管见，仰祈宪鉴事。窃职道忠良之后，世受国恩，蒿目时艰，亟图报称。上月北地拳匪滋乱，致成中外之衅，京师震恐，南省亦复戒严，幸各大宪权衡至当，遵旨和衷，联合保守疆土并与各国订约，分任保护之责，俾兆民得以安居。职道以为我民仇教之心未尝或忘。未与各国订约，保护之责固重，既与各国订约，保护之责尤重。保护不周，彼必以我为背约而兵衅自此开矣。南省教堂，何地无之？实有防不胜防之虑。官绅劝谕虽明，而空文终无实际，差勇巡防虽力，而百密不免一疏。中东一役，外人轻视我久矣。自大沽之战，始知中国未尝无人。彼见我防堵严密，断不肯轻开兵衅。是东南各省得各大宪，未雨绸缪，诚哉安如磐石。所有戢内匪以杜外患，安教民以保和约，诸事能不郑重思之哉？职道管见所及，拟请照会各国，将各郡县教堂财产点交地方官收管看守，西人之游历者亦然。牧师、教士咸于省城择地安置，通商口岸责成关道，此有数利焉。教民与我民究同乡土，或关戚谊，断不轻意仇害。民教之案，每先自焚毁教堂始，匪徒惟志在乘间伤人劫财耳。今知教士在省，郡县徒存空屋，人无可伤，财无可劫，更何必起而为难？即使偶失防维，则责成地方官赔修。苟得

教士无恙，办理定易措手。大宪平章军国，日勤庶务，如此则保护西人之责可抒矣。省城兵士云屯，匪徒何敢蠢动？是能保约，即无后患。东南半壁各大宪保障之功，岂不伟欤？职道仰见大人，荩谋硕画布置周详。而一得之愚，不能自秘，是否有当，伏候察核施行。观察之言如此。窃以为迩来各省教案蜂起，警电纷传，大吏苟遵而行之，则教士既得所依归，匪徒自不至肆行无忌，安全之策诚无有善于斯者矣。且此非托诸空言也，前固有行之而收实效者。犹忆甲申之役，中法构兵，无锡薛叔耘京卿方备兵四明、石浦。马江敌氛甚恶，甬上民情汹湧，以教士多来自法国，咸欲得而甘心。而钦奉纶音：有法国教民愿留内地安分守业者，着一体保卫等。因斯时护之则拂民心，逐之则违圣意，踌躇再四，措置良难。加以定海奸民散播谣言，有教堂置炮藏奸之说。爰函商英领事及法主教，一面令郡城教士迁至江北岸租界中，而将羸病及十二岁以下者暂留堂内，选一本本地教民之勤妥者为之照料。一面拨兵勇之老成稳慎者悉心看守堂屋，以免疏虞。厥后和议告成，教士同声感谢。粤省则办法大同小异：堂屋由地方官权时封锢，教士一律谕令出境暂避，事定始准折回。诚以民人戕害教民，仅见于四川、直隶、山东诸省。若东南各处，则惟鸠聚匪党，焚掠教堂，从未有恶及教民，恣行屠戮者。故但使教堂教士保护周详，虽有奸民，当不致生意外之变。否则中西既订互保之约，万一事起仓猝，西人即以首先背约责我，我将何说之辞？岂非张、刘诸大师孤诣苦心一旦付之流水耶？鄙人无似偶贡刍言，采而行之，是所望于群公袞袞已。

七月十三日(8月7日)

《新闻报》

英国筹华章程

自北匪肇祸，殃及各国，遍地皆兵，生民涂炭。今英国政府目不忍睹，屡开议院，为中国代谋平匪治乱之法。故西历八月二号由各议员于下议院议定章程数则，通饬内外大小臣工照章办理。昨日驻沪英总领事霍必兰君接到电谕之后，立将详订原稿发交本馆，嘱代登报，以供众览：“一、我英急宜会同欧亚各强国迅速派兵入京，解散使馆之围，保全各国公使，务使中国政府不得压制各国公使及欧洲各国自行保护本国官民及为本国官民雪恨之权。二、扬子江及扬子江附近毗连之处，本由该管总督等与我国商定会同保守。以后我英无论水陆师团，亦理宜与该管督臣等协力相助，平靖匪乱，以符定章。而军民所到之处，该总督等亦当设法预备粮食，使我西人有所供给。该总督等亦须始终如一，不得中道悔盟。三、我英此番既阻止他国瓜分中国，亦宜照会各国循章办理。四、中国乱事平靖之后，其将来政治或由北京主政，或由他处分政，其权仍归华人，而欧西各国钦使断不从中干预。五、各国钦使自此以后理宜益加留意，设法将华兵谋归西官训练，以便两获其益。六、我英既联合强国之兵，代中国扫除内患，中国亦当酌偿兵费，以免亏累。西历一千九百年八月二号沙里十堡来谨订。”译《字林报》。

七月十四日(8月8日)

《新闻报》

英国筹华章程书后

昨报纪英国筹华章程六则，系英相沙侯为中国代谋平匪治乱之法。崇论宏议，洞中机宜，登高一呼，众响必应。其能保全我中国疆土，固我四百兆人民，所感恩戴德不忘者也。夫中国积弱既久，日渐衰疲，圣明虽图自强，而限于权奸之扞格，志士虽筹新法，而苦于官吏之阻行。地土非不膏腴，生民非不智慧，所以受各国之倾压而不能起振者，盖政治废弛之所致也。今年北匪肇乱，酿成衅端，贸易则阻滞不灵，人民则奔逃不暇，兵连祸结，中外同殃，大国通商，因之败坏。知不待干戈相搏，必早有悔祸之心也。论一国动各国之公怒，必至败亡；一军受联军之猛攻，终归糜烂。寡不敌众，弱不敌强，虽愚者亦知之。然乘人之危以取之人之国，谓之不仁；欺人之懦以取人之国，谓之不勇；取人之国因而置其国于穷，取人之国则仍陷其国于乱，亦谓之不智。则与其取人之国而两有所损，何若还人之国而两获其益哉？顾救弱扶危必归大国，而取威定霸尤推首盟。英为大邦，其筹华章程六则，盖中外联和之一大关系也。惟是利在一国则各国所不受，利在各国则中国亦不从，理非秉公不足以成议，事非持正不足以服人。故沙侯所议，窃不揣冒昧而书于其后，以定是非焉。

其第一则，会同强国派兵入京保全公使等语，自是正办。盖疆臣虽奏请护送，谕旨虽准派护送，究之道路甚险。一不妥，华兵难靠；二不妥，权奸叵测。难保半途无意外之虞，故宁待西兵到京自行救危，中国轻一分担承，即省一分危虑。其第二则，我英水陆师团在扬子江与该督臣等协力相助，该督臣当供给粮食等语，尚未妥愬。夫长江大臣之力任保护者，以能专兵权、能服人心之故，西兵虽愿协剿，试思吴淞偶集西舰，长江且震动。若居然派兵前来，又纷索粮食，则百姓惊疑，必至逃窜四方，不安生业。且内地深阻，西兵亦有难到之处，不如听该管地方官之熟手自理，易帖民心也。其第三则，阻止他国瓜分中国等语，极为明通。某尝论西人如以中国为商场则可以致富，如以中国为战场则可以致穷。盖无论佳兵不祥，造物所忌，即失鹿共逐，群雄并争，亦必互相戕杀不可底止，故不议瓜分谓之上策。其第四则，事平之后，或北京主政，或他处分政，权归华人，各钦使不干预等语，尤其智谋。近来办理交涉，钦使过恃权势，总署略怀怨嫌，不免因龃龉而生仇恨，故不干预一层最足通情好，最足泯衅端。公正和平，人心共服。西人凡办理交涉，如能守定此意，尚何患民教相争、商情不治乎？其第五则，华兵谋归西官训练等语，尚须斟酌。近来中国营制凡购置枪炮、操演阵式悉皆仿用西法，而水师、陆师武备自强，亦皆聘用西人充为教习。中国非不力图上进也，故归我聘用则宾主显分，归西官谋充则反宾为主，将来兵权全操外人，毋亦嫌于干预乎？其第六则，中国酌偿联军兵费等语，自应酌行。此番战衅，将来议和偿款，理所固然。惟各国调兵来华宗旨，自称代平匪乱无意瓜分，则保全中国人民即是爱惜中国财力。中国贫穷已极，又复国债递加，吾知各国外体恤入微，必不至过于要求，使我元气丧